言ではないが兒童自身に保養所に來た理由を十分理解し覺悟した爲よく遊びよく戯れ晏如として眠り殆んど家庭の子たるが如くであつた。健康狀態は入所以來海氣、海水、日光浴をなし且適度の運動をした結果營養狀態佳良となり皮膚は暗褐色に變じ抵抗力を增し蒲柳の樣子は認められなくなつた經費は一人當り四十圓(二十三日分)內三十五圓弱は入所費で他は寄附金等で補つたものである。

(4)、林間臨海敎育(晝間轉地)

靜岡縣沼津小學校が沼津千本濱海濱に於て行つたもので洋々たる海彬々たる黑松林の間に於て大自然に接し質實剛健なる風を養ふと同時に一部病弱兒童を救濟すると共に進んでは全兒童の健康を增進するを目的として、夏休暇を前後二期に分ち、七月中八日間九月中十九日間及八月中二十四日間夏季早起を儲した加參した生徒は大正九年に於て尋常三年以上の男子九百四十九名で三組に分ち、午前七時半より三十分授業三回を校內で行ひ九時二十五分林間臨海敎育場に向ひ一時間半林間臨海敎授を行ひ、先づ準備體操を課して海水浴を行ひ砂浴、遊戯體操、整理運動をなしたが二ヶ月に亘る經過を總括すると身體上には身長體重胸圍等の增進を明かにしたるのみならず、赤銅色の肌、ひきしまりたる筋肉、潑溂たる活動等其効果の歷々たるを認められ、精神的にも師弟の情誼を養ひ天眞爛漫の裡に個性の陶冶行はれ且長幼相擁護するの友情の麗はしさを覺え勞役の習慣を養ひ海事思想の養成に資する等、多大なる効果を得たとの事である。經費は全部で百六十圓で主として寄贈によつたものである。

九、水泳を主とした轉地敎育(附)海上旅行

(1)　東京赤坂臨海敎育團の臨海敎育

北學校衛生官は東京市に於て少くとも二百以上の保養團を要すると云はれたが赤坂區では區内の主として小學校兒童の内から、平素虚弱の有志者三十六名を選んで、大正六年には房總半島の鋸山の北海岸にあつて三浦半島の觀音崎に相對する處、海底は遠海で砂細かである所の上總國濱金谷に於て同年七月二十五日より八月十四日迄三週間の病舍生活の臨海教育を行つた。本團は男性的な風土衛生的で健康に適する氣候を利用して愉快裡に身體を鍛練したり精神を修養し併せて學業に勉めるのが目的で、出來るだけ規律を嚴にし、然かも生活其ものは家庭的にさせるのである。

日課は海水浴、水泳を主とし海濱遊戯としては角力、水中での團體競走、砲臺軍艦などの模型を製作したり裸體で體操を行つたり海濱の徒競走などをさせた。學科は溫習を主とし程度によつて四班に分ち、監督者の指導の下に休暇宿題及學科復習に勉めた。尙晝食後約二時間は宿舍内で安靜に午睡をせしめた、午後の三時頃間食としてパンや菓子を與へることもあつた。尙保田に遠足をしたり鋸山に登山したり且驟雨を利用して雨水浴を行ひ勉めて本團參加虚弱兒童をして抵抗力を增進せしめた爲、豫期に反して僅かに全期中四名の感冒胃腸加答兒に罹りし者ありし位で元氣旺盛赤銅色に黑みて無事歸京した。體重は平均一人に付一〇〇、五匁の增量をし病中で體量を減少したものも歸京後忽ちにして恢復した。家庭よりの報告によるも身體上に從前より特に壯健となりしものや皮膚が强健になりし者も多く訓育上には父母の命に從順になつたものが多いといふ事で年々引續き擧行を特に希望して來たものも多かつた。經費は凡そ五百四十圓で（一人當り十五圓）父兄や有志の寄贈金も亦多かつた。本團の實驗によるも期間は二週間位よりも三週間位施すのがよいといふ報告もある。

(2) 東京府立第四中學校臨海團（全期轉地）

第四中學校に於ては十二三年前より房州海岸にて水泳部を設けてをつたが校友會は四年前房總線岩井驛附近の高野海岸に三百坪の地を購入し百五十坪程の寫舍を建築して毎年七月二十四日より向ふ三週間の臨海聚落施設を行うて居る。收容人員は百五十名であつて本團は水泳を行ふ體育を主としたるものであつて監督教員數名と水泳教員として卒業生十三名とが附添うてゐる。毎朝三時間づつ學科の溫習をなさしめ其他の時間は水泳をなさしめる。訓育としては特に記すべきこともないが教員の監督其よろしきを得て充分の効果をあげてゐる。

經費は一人當り二十三圓であつて生徒各自の負擔である。本團は健康を主とするにより其効果を見るに胸圍は一般に增加するも體量は減少する。然し歸京後は一定時の後に必ず增加するといふことである。

(3) 大阪府天王寺師範學校臨海教授

大阪天王寺師範では泉南郡尾崎海岸に水泳場を設け期間は大正六年度には七月十一日より二十日迄十日間實施した。團員は同校生徒並に乙種講習科生徒全部約四百名といふ多數の人數であつた。實施した事項は觀海流の水泳術や諸泳法の教授（水泳教師として職員中より三名を撰び）和船の漕法の練習、水泳競技會、動植物の採取と實地指導、寫生練習などをした。經費は臨海教授地の遠近により多少旅費に相違あるも大抵生徒一人に付一圓乃至二圓を支出するを程度とし其他の經費は校費や校友會より支出してゐる。水泳を主としたのではあるが體育上より見たる成績は、（水泳は全身筋肉殊に胸筋の發育に頗る効果多く體育上より見て理想的運動法である）皮膚强健となり抵抗力を增すため冬期感冒に罹されること少く又皮膚病の如きは殆んど絶無となる。海岸及海上に於ける

裸體生活は體育上偉大の効果があるので夏季に於ける臨海教授は生徒體育上最も肝要なる事業であると信ずる。

(4) 東京府立第一高等女學校海濱田園生活（全期轉地）

校長市川源三氏は教育上常に新しい學説を研究され且これを實行する教育界の新人であるが生徒の暑中休暇に就ては以前から種々の施設をいとなんでをられる。近年は日本アルプス等に登山させて生徒の身心を鍛はせる樣な山岳の利用法も講ぜらるゝが又以前からの海濱生活も重視せられてゐる。或る年は房州北條町に二週間ほど滯在せしめて海の生活を味はしめたが同地は近年避暑地としても知られ自然が漸次に破壞されつゝあるを見て翌年は千葉町の高等女學校寄宿舍を借り受け暑中休暇に入ると直ちに校長以下職員が數十名の同校生徒を引卒して主として海濱に於ける田園生活をなさしめた。毎日水泳やら近效の散策に二週間の後には雪白の樣な顏も赤銅色に染つてしまう。元來都會の婦人殊に女學生は田舍と違つて共同生活をなす機會が殆んどないのでかゝる休暇を利用してこんな習慣を改めさせ一方には自墮落に陷り易い休みをかく有効に過させるのは最も適當なる施設と謂はねばならぬ。

『この机をお使ひ下さるのはどなたか知らないが、おなつかしい』とか或は『都からいらしつた方々は御買物に御不自由でせうが、おいしいお菓子は何屋で、おいしい果物は何屋で……』これは府立第一高女生が來るのを待受けて千葉高等女學校の寄宿生が机の抽斗に入れてあつた手紙である。到着すると間もなく千葉女學校生の大觀迎會があつたり、次で府立第一高女生が御禮の會を開いたりして都會と地方との兩女學生が大變親しく交る樣になつたのも此生活のよい收穫であつた。市川校長の心配された事は間食の多い事や生徒の女友達の訪問

が多かつたので多少規則的生活が妨げられた事であつた樣である。

(5)　石川縣女子師範學校の臨海敎育

身體の强健を圖り兼て水泳法の大要を會得させやうと石川縣女子師範學校では本科の一、二、三學年及第二部で組織した八十六名の生徒に大正六年の七月二十二日より十日間海岸に於て水泳練習を行はせた。實施方法は朝五時起床朝食後修養講話を行ひ午前九時からと午後二時からと一日二回水泳を練習し（晝食後二時間午睡を許す）其他の時間は生徒の自由研究及娛樂に委した。經費は一人當り四圓四十錢（自辨約一人三圓）其成績は海を恐れず水に親しむ樣な氣風を養ひ勇氣忍耐剛健の性質を與へ得ることが出來た。身體上にも體重なども開始前と終了時とは一人に付平均百三十五匁を增した。其の後の經過を見るに感冒に罹るもの極めて少なくなり女子定期の生理的現象にして週期不整なりしものが水泳の結果順調になつたもの數名もあつた、殊に水泳は全身活動で、狹くなり勝ちな女子の胸部を擴大するなど女子には殊に價値多きものゝやうである。

(6)　東京府立第五中學水泳部

同校の水泳部は第一回を大正十一年に千葉縣君津郡湊町に行ひ福本樓に宿舍を定めて七月二十日より三十日迄十一日間、水府流太田派の泳法によつて練習した參加した生徒は各學年合せて四十一名、同町黑坂醫師を臨時に囑托して當に健康狀態を檢診してもらつた。七時牛から九時迄は學習であるが、あとは主として水泳及自由にまかせた。技術は熱心に從順に指導を受けた爲、其進步著しく全く泳法を知らなんだものも一哩乃至二哩の游泳に堪へ得る程度に達した。費用は一人當り二十四圓であつた、

(7)　大阪市水泳練習會

大阪市教育會は市内小學校兒童に水泳を練習せしめて心身の發達鍛練を圖るを目的として大正六年には八月一日より十九日間午前八時より正午迄堺大濱、湊の濱に男兒水泳所、羽衣濱に女兒水泳場を設けて南道場として南區東區及び西區の半部のものを、又西の宮に男女兩水泳場を設けて西道場とし北區と西區の半部のものを收容した參加したもの男六、四五八人女五八五人（計七〇四三人）であつた。百町遠泳のもの二一六人以下一町以上泳ぎ得るもの二、二五六人に及び女兒も尙五間以上三町迄を游泳し得るもの百七十九人を算し體育上には身體の發育上頗る效果あり胸部の狹少な都市兒童の胸部の發達をなさしめた。

尙皮膚を强健にし抵抗力を强くした等利益が多かつた。經費一人當り四十五錢强（兒童一人三十五錢負擔）であつた。

(8) 神戸市湊東區教育會水練場

兒童の健康增進と水泳練習に兼て海軍思想を養ひ、勇敢堅忍等積極的の諸德を啓發する目的で七月二十二日から一ヶ月間尋常四年生以上の兒童一、二九五人を二部とし隔日に鷹取驛附近革磨の海岸の水泳場で水泳を行ふた。何分神戸より汽車で水泳場に通ふのであるから、零時三十分橘小學校校庭に集合一時三十分の汽車で行き入水三回（二十分宛）三時四十分着衣午後四時半の汽車で神戸に歸り五時解散するのであつた。教授の方針は技術の末に馳せず身體の發達に適應すべき樣に注意を拂うてゐた爲、練習日十五日なるに拘らず六四人は游泳することを得たのである、經費は一人當り平均九十九錢（汽車賃を含む）であつた。

(9) 新潟市小學校水泳科

新潟市では尋常三年以上の有志兒童男女合計二、二九七人（大正九年）を以て

水泳科を編制し、身體教練、水泳術の練習及危險防止を目的として海岸に四ケ所の水泳場を設け七月上旬より二ヶ月間行つた。同市が河海に近接するから海を恐れぬ氣を養ふことは必要であつて、此施設によつて此風を養ふことの出來た外、身體の改善、生活も規則的となり堅忍持久の精神に富ましめ且皮膚の抵抗を强くした等得る所が多くあつた。

(10) 鳥取縣啓威臨海學校（全期轉地）

啓成小學校では夏季休業中早起早寢の習慣を作り、有害な危險社會的刺激より救濟し、且一定の規律の下に學習的習慣を繼續し、自然に親み廣濶雄大な景致に接して知見を啓培することに努め又兒童と教師とが觸接するの機會を多くして個性に適應する指導をする爲と身體方面よりは海風に浴し諸器官の發達を圖り水泳によつて全身の强健を得せしめようと西伯郡淀江町海岸に八月一日より十日間（大正九年）兒童二十三名を以て臨海學校を開設した。まづ午前五時起床し海岸散歩海岸裸體々操、駈足深呼吸遊戯等をなし水泳は午前午後二三回行つた、午後一時には午睡をなさしめ海魚貝類の採集其他自由研究を行ひ八時就寢するので參加者は特に薄弱者でなかつただけ効果も多かつた經費は一人當り四圓七十七錢であつた。

(11) 横濱市兒童海水浴

横濱市の小學校は聯合して兒童の健康增進と水泳練習の爲本牧町根岸町海岸に三ヶ所の水泳場を設け男子は、七月十二日より二十五日迄女子は七月二十六日より八月四日迄一日三時間宛水泳を練習せしめた。參加した生徒は男三七、五四四人女一、四一七九人であつたが共に可良の成績をおさめて居る。

(12) 鋸山夏期學校（全期轉地）

千葉縣千葉中學校は翠嵐翠勃たる境なる日本寺の一部と呑海樓の一部を校舍に充て學科の敎授と同時に水泳をなさしめ樣と四十六名の生徒を收容して大正九年は七月廿六日より十二日間開校した。實施した樣子を見るに午前五時起床し朝食後三時間は英語數學、國語、及漢文の三科目と歴史、地理、博物の學科は鋸山を中心として講演し又實地に指導をし水泳は午後一時より三時迄山下八丁の水泳場にて敎へ溫浴、自由運動等で午後八時半就寢するものである此費用生徒一人に付拾五圓であつた。

(13)　三重縣女子師範學校水泳

津市及阿漕の海岸で大正九年七月二十一日より一週間水泳術の修得を主とし海中海濱動植物の採集實驗や健康增進の爲に百二十二名の生徒が三重縣立高等女學校寄宿舍を宿舍にあて午前五時起床、八時から二時間と午後〇時半からと二回水泳を行つたのであるが、進歩著しく五十丁以上も遠泳出來るもの九名にも及んだ經費一人當り四圓弱であつた。

(14)　東京市上野高等女學校の水泳練習

同校では都人があまり入り込まず海が遠淺で浪なく水が澄んで眺望のよい伊豆國田方郡江の浦灣三津（駿豆鐵道長岡下車西一里許の漁村）を選び海濱生活を一週間許行うた事がある。五十名の女生徒は浴衣すがたのまゝで口語體の古事記や竹取物語の易しい講讀を指導され自疆術やら水泳を練習した。時には漁船を備うて淡島廻りをする。僻遠の地だから菓子は買へぬが魚類や野菜は豐富で思ふまゝに海濱の田園生活を行ふことが出來た。

(15)　北海道小樽水産學校の臨海實習

漕艇、水泳、學習其他心身の修養を目的として大正五年より夏十五日間忍路郡

蘭島に施設した。五十四名中四十九人はいづれも一町以上四里まで遠泳するを得るに至つた。

(16) 大阪府天王寺師範學校臨海教授

水泳及和船の漕法を主として教授し海岸及海上の裸體生活により皮膚の强健を謀り且つ動植物を採集して實物教授をすることや各學科の講演を行ふことを目的として泉南郡尾崎村の海岸に七月十一日より廿日迄四百名が臨海教育を行うたが全く水泳を知らぬもので最も成績の佳良のものは十日目に百町の遠泳が出來る樣になり最成績の惡いものも尙三町に及んだ。

(17) 木津川水邊學校

奈良教育會の主催で水泳練習と健康兒の健康增進を目的とし又學科の復習として算術を練習させる爲京都府相樂郡木川町の河岸に水泳場を作り九十七名の尋六以上の兒童を西念寺の宿舍に入れ八月二日から五日間開設した午前五時半起床し學科の指導を受けて後午前午後二回水泳を行ふので成績は佳良であつた。

尙水泳を主とする臨海園は各地いづれも行うてそれ〴〵佳良の成績をおさめて居る本邦は海國の事であるから水に對して之を懼れしめぬ爲にも水泳練習を課したいものである。且體育上最も効果あるのであるから可成的に多數にかゝる施設をされたいものである。

(18) 慶應義塾幼稚舍生の海上旅行

同校では大正十一年には種々の計畫を行つたが第三學年の學級では保護者の同意を得て夏季休暇短縮の試みをやつた、それは約三十名の有志兒童が八月中旬から同月末まで日曜日を除き毎日學校へ通はせ一日一時半を限度とし或は早朝或は夕方から學校へ集まつて兒童自身の自由學習を教師が誘掖するにとゞめ

其學習よりも遊戯體操を主とし一日の義務を果して歸宅する。かゝる趣旨によつて永い休暇で飽きてゐる所へ二週間もこれを行ふのであるから心身を清新にするよい方法で都會の兒童に取つて品性上又身體上學習上寧ろよい結果を及ぼすことである。

上級生は山と海へ出掛けて行く。一方は日光湯元溫泉へ約十日間の林間學校を試みた。これによつて兒童の胸圍、體重等の增加したは明かで、身體全部のために有利のことはいふまでもない次第である。その上理科、地理、歷史の實地經驗學習の効果の非常に顯著であることは寧ろいふだけ野暮である。他の一隊は海へ行く、大正十一年は海濱學校を見合せて海上旅行を試みた。贅澤な事をするといふ批難をする人もあらうが、決して贅澤な旅行ではない。何となれば一日參圓內外で旅費全部を支辨し得るからである。先づ七月廿一日橫濱から日本郵船の榛名丸に乘つて神戸へ行く。上陸して處々を見學し、船に歸つて寢る。二泊後門司まであの內海の美を賞しながら行き、門司から中津へ赴き福澤先生の舊宅を訪ひ先生の幼時の貧しい境遇、勉强された部屋などを見て深い感銘を受けた自分達の境遇と偉人にして我が校の大先生の幼時の貧しい境遇とを比較して少からぬ驚きと奮勵心を喚起し、さうして耶馬溪へ廻り別府へ出て、往路を取つて八月二日橫濱に歸航した其海上指導事項は

一、海上生活の一般狀況　二、船舶の構造
三、航路と港灣築港　四、航路標識
五、海圖の利用　六、羅針儀、經線儀、六分儀等
七、無線電信　八、造船所
九、軍港と商港　一〇、沿道の地文地理

十一、沿道の歴史的事項

等であつた

尙慶應幼稚舍の外に御伽會でも瀬戸内海の景勝を背景として海上生活の遍歴轉地を行ひ相當に効果を收めたとの事である。

(19)　東京成城小學校の臨海轉地（全期轉地）

日本アルプスの麓なる木崎湖畔に山間轉地をしやうか或は荒浪と戰ふ海濱轉地をしやうかと議論を戰はした末色々の關係から大正十一年夏には九十九里濱の海に轉地することに決定した。海は成東を去る二里、本須賀で小原主事赤井幹事はじめ教師は八名、兒童は大小合せて六十一人、七月十六日から二十五日迄十日間、海鳴り響かして眞白な浪が逆卷く海濱に心ゆくばかり海氣を吸つた。水泳は川で練習した。

宿舍は旅館と裁縫學校と村の人の家に分宿した。

行事は朝六時起床、六時半に海岸に集合して體操、七時半から九時迄は自由研究、九―十一時迄と一時半から三時半迄水泳及び磯遊び、八時に就眠

二十一日には銚子に徒步遠足、醬油釀造所、測候所、無線電信局、犬吠崎と見てまはつた。又ある日は水泳の試驗、繪畫展覽會、音樂會は村の小學校兒童にも加勢してもらつて合奏やら獨奏獨唱となか〳〵盛況であつた。

せゝこましい都會の塵にまみれてゐる兒童にはどんなにこの九十九里濱が彼等にフレッシュな氣を與へた事であらう。

一〇、日本赤十字社

日本赤十字社では以前より兒童の保健に就て苦心して居つたが大正三年京都

支部が天の橋立の海濱に保養所を開設(前掲の通り)した以來、各支部競うて之を企劃し大正十年に於ては十一支部十二ヶ所の保養所を開設し約二千五百人の兒童を保養せしめる樣になつた。同年の實施概況を同社の報告によつて摘要すれば次の如くである。

大正十年夏期兒童保養所概況

支部名	所在	種別	開設期間	收容兒童數	最低年齢	最高年齢	經費總額	同上に對する一人當り	入退兩時體重比較平均增加數	創設以來同數	創設以來收容兒童數
東京	北多摩郡深大寺小學校及深大寺境內	林間	自八月一日至同二十一日	二〇九	八	一五	一五、五〇五、一二 圓	七四、一八	一〇四	一	二〇九
京都	與謝郡府中村阿蘇尋常高等小學校	臨海	自八月二日至同二十四日	一四九	七	一三	五、五五八、〇三	三七、三〇	八二	八	八五四
神奈川	鎌倉町鎌倉尋常高等小學校	同	自八月四日同同二十四日	八八△三八	八	一四	五、一四〇、五六	四〇、八〇	一一四	一	一二六
三重	度會郡二見浦二見尋常高等小學校	同	自八月三日至同二十五日	一〇三	一二	一三	三、〇〇三、一三	二九、四四	一六五	三	四四八
同	河藝郡白子町鼓ヶ浦白子尋常高等小學校	同	自八月三日至同二十五日	一一四	七	一三	四、七六九、二七	四二、〇二	一四六	一	一一四
愛知	碧海郡大濱町大濱尋常高等小學校	同	自八月二日至同二十六日	三八	七	一二	四、三二八、八六	一一三、九三	一三九	一	三八
岐阜	岐阜市公園內	林間	自七月二十二日至八月三十日	△六〇	八	一〇	一、五九五、七六	二六、五九	一四三	一	六〇
福井	敦賀郡松原村松原公園敦賀商業學校	臨海	自八月三日至同二十四日	五一	七	一四	一、三八八、四五	二七、二二	一三〇	一	五一
石川	河北郡七塚村外白角尋常高等小學校	同	自八月一日至同二十一日	一〇〇	八	一四	三、三六〇、二二	三三、六〇	一七五	一	一〇〇
鳥取	東伯郡泊村泊尋常高等小學校	同	自八月七日至同二十一日	三七	七	一三	七三、五五	一九、五六	一二四	一	三七
島根	簸川郡杵築村杵築尋常高等小學校	同	自八月一日至同二十一日	一〇〇	七	一三	三、五六七、一七	三三、六七	七〇	二	一〇〇
岡山	兒島郡本莊村本莊尋常高等小學校	臨海	自八月三日至同二十三日	七〇	七	一四	一、六九九、六五	二三、九九	一五六	二	一一二
靜岡		同		△一三二	九	一五	二八八、八九	一、八九	二八	一	一五三
總計				△八七〇四三九	七	一五	五〇、九〇八、六三	三八、八九			二、四七八

成績の概要は體重の増加は全保養所を通じて平均百七十八匁強を示した。

京都福井などでは米麥混食であつたがこれは成績がよい樣であつた。又食物に對する嫌忌の度を減じ夜間熟睡の度を深くする樣になり一般に事を處するに規律的に習慣つけられた。殊に面白いのは福井保養所に於て保養所時報なる兒童新聞を發行し兒童に配布したのは特色ある事で參考資料とすべきである。又教師が食堂を共にして指導したのも各所とも同樣であつたが、殊に興味あるは島根保養所であつて食事の前後教師から魚菜の名稱や夫に關した理科的談話をした。教育の用意はかくあらまほしいものである。要するに教材は隨處に得らるべく講堂以外悉く教場といふべきである。

備考　△印は通所者である、

第四章　成城林間學校の發端

今から考へると、もう六年も先の大正六年の第一學期の事であつた。成城中學校には假及第といふ制度が有つて、學力薄弱な生徒は假に進級はさせておいて、第一學期末の試驗で成績が不良なれば、前の級にもどすといふ事になつて居た。そこで第一學期は此等假及第生には實に天下別目の大切な學期で、何は置いても不成績の學科の補充に全力を注がねばならぬ事になつた。個人的に先生に就いて習ふものも有り、學校でも家庭教師の世話迄して、大に奮發を促したが、仲々思ふやうに徹底しない。そこで學校では色々と彼等の指導を考究して見たが、結局學校でも特に彼等の爲めに學習の補充をしてやらねば駄目だらうといふ結論に達した。そこで英語と數學の教師が先づ二學年の假及第者十數名を

各日曜ごとに招集して、補充の指導をやることになつた。生徒自身も非常な奮發でよく日曜日にやつて來た。そして只學校の敎場で普通の授業のやうにやつて見た所で、興味が無いし、ことに氣候が此の年は早く暑くて、もう夏のだれた氣分が大部進んで來たので、何所かもつと新淸な氣持の所を選ばうといふ事になり、郊外の戸山ヶ原といふが陸軍の用地で、極めて廣く、樹木も茂つて、草原も多く、全く市中を去つた林間の氣持がするから、遂に其所で每日曜を過すことになつた。そして朝涼しい中に英語數學を指導し、敎師は生徒と一所になつてシャツ一枚で共に運動もやつた。此れで非常に生徒と親しみが出來て、學科の興味が增し、憐れなる假及第生も自信を以て勉强するやうになつて來た。そして健康の工合も目立つてよくなり、劣等生に有りがちな學校缺席といふ事が殆んどなくなつた。此れが抑成城中學校が戸外林間の授業といふ事を思付いた濫觴で、長田文學士、山岡敎諭などの努力になつたもので有る。

此の頃暑中休業がだん〳〵近いて來たので、學生をして如何に暑中を過ごさしめるべきかといふ事が別に問題になつた。これは每年の事では有るが、暑中休の學生の生活といふものが、どうも理想的に行かない。每年休前には色んな注意も與へるし、色々な準備もしてかゝるのだが、どうも豫期の如き指導が出來ぬ。每年の事で有りながら、每年休みを終へた時には、休中に色んな弊害の有つたことを發見する。ことに近年都會の不良少年の問題が喧しくなつて來て、學校でも家庭でも共に頭を惱まして居る。田舍の學生ならば、休みの中は勝手に自然の中へ沒入させて置けば、其れで敎室で得難い智識と經驗が自然に得られるのだが、東京の赤熱の暑中、ことに不衞生極まり危險極まる透惑の中に置くことは、何としても弊害の多い事である。或る時敎員室で次のやうな會話が

繰返へされた。

「暑中休みはもと〳〵休養の休みなんだから、全部勉强させやうつたつて、無理ぢやないか。」

「そりや無論さうだ。然し全然遊び暮して、放慢な生活の習慣を第二學期迄影響させるのは禁物だね。」

「海水浴の利害はどうか。」

「海もいゝね。ことに病者には極良いよ。僕も實は海が好きだが、學生は海濱では勉强は全然出來ないよ。」

「僕もさう思ふ。僕自身も勉强する積りで海濱へ幾年も行つたが、總て不成功だつた。一體どうして海岸はあゝ勉强の氣分にならぬだらうか。」

「そりや氣壓の加減だよ。そして濕氣が隨分多いからね。朝から所謂「どんよりした」氣持で、外をぶら〳〵歩るくか、然らずんばぐう〳〵晝寢をするだけだ。だから僕は海岸の生活を「ぐう〳〵ぶら〳〵の生活」と稱へるんだ。ぐう〳〵ぶら〳〵の改造を要する事切だね。」

「それから海濱には肺病の患者ばかりだよ。美人を見たら結核患者と思へと言ひたくなるね。漁夫を見たらトラホームを移されると思へとも言はざるを えない。」

「ヒヤ〳〵明言だ。それに比較して山を見給へ。海拔六千尺の上に結核患者一人でも居るか。それから夏尙寒いといふ太古のやうな靜けさの所に居れば、誰でも本が讀みたくなるよ。」

「山に滯在して居れば金を費はなくてよい。」

「さう〳〵。海濱では金を費つていかん。そうして誘惑が多くていかん。夏

休みは山に限る。」

こんな會話に花が咲いて、よう〳〵今年は學生を山へ指導して見やうといふ事に一決した。此れが林間學校を更に考へさせた第二の事情であつた。

そこで學校の當局が林間學校といふものの研究を始めた。先づ歐洲の前例を調べて見ると、既に一九〇七年に、獨逸シャロテンブルグでは、肺結核患者收容の目的で林間學校（ワアルトシユーレ）が實施されて居り、其後歐米諸國の倣ふ所となり、日光空氣の沐浴療法を加味した野外學校（オープンエヤスクール）の形となり、愈々其の功果が認められて居る。瑞西の如きでは、アルプスの深林間に夏期は全部學校を移すことすらやつて居る。我國の實際を見ると、白十字の茅ヶ崎、吉野山などに既に此の種のものが行はれ、瀬戸内海の海濱林間などに所謂林間學校が行はれて、相當の功果を收めて居る。そして此等は多くは病弱の兒童の療養といふ事を第一の條件として居るやうだ。

ところが我が成城中學校では、生徒の健康狀態は比較的良好で、病弱療養を要するやうな者は幸にさう多數でない。寧ろ問題は健康者にして學科の補充を要するものと、强健者で休中の有益な生活が必要な者とに有る。だから林間學校を選ぶ場所としては、海濱や東京近在の平地などよりは、何所かの高山の麓を原の高取らうでは無いかといふ事になつた。

そこで目を信州につけた。信州は山國で、要件に適する地は諸方に有る。日本北アルプス中の上高地温泉場、白骨温泉場、中房温泉場、大町木崎湖畔、青木湖邊から、北では戸隠山方面、野尻湖畔、東では白根淺間の裾野方面、上林（カムバヤシ）温泉場、輕井澤高原、更に東方では八ヶ嶽方面で、巖温泉（諏訪）、富士見高原、南方では木曾溪谷の各地など、擧げ來れば遑ない程である。そして此等の中か

ら最も適當な場所を選定することにした。

校長澤柳博士は信州の出である。教師の中にも信州の人が有るので、信州には知人が多いから、色々と其の意見を聞いて見た。そして日本アルプス學會と力を合せて、日本アルプス方面に地をトする方針を取つた。此の時大町小學校に居た手塚順一郎氏は、アルプス學會の幹事で、日本アルプスには、精通して居たので、氏に依頼して、温泉のある適地を選定して貰つた。そして遂に中房の地を取ることに決定した。これに就いては同地の小泉信平、手塚久見兩氏などの厚意により、この企畫は着々進歩したのである。中房温泉場を選んだ理由は、主として次のやうなものであつた。

一、日本アルプスの燕嶽、有明山の麓で、俗界を遠く離れて居ること。

二、直に此等高山に登攀しえられること。

三、地貌の變化多く、地文地質の研究によいこと。

四、動植礦物、高山氣象等、自然研究の好資料に富むこと。

五、氣温低く、濕度小く、素より空氣清澄であること。

六、温泉が豐富で、其の利用が充分に出來ること。

七、物資の供給が他に比して容易廉價なこと。

中房温泉場主百瀬氏は、非常な好意を以て、客舍を林間學校に提供することを承諾してくれた。そこで愈々今年は七月廿日を期して林間學校を日本アルプスに始めることに決定した。

先づ左の「林間學校趣意書」を印刷して、生徒及父兄に宣傳した。

日本アルプス成城高山林間學校趣旨

暑中休暇の善用は獨り我國に於てのみならず、歐米に於ても教育上の一難題で、未だ十分の解決が出

來て居ない。本校が日本アルプスに林間學校を施設するに至つたのは、此の難題に對する解答である。

林間學校に生徒を收容するのは、高山生活が身體を鍛練する上に、又精神を修養する上に、實に貴い價値があるからである。決して暑を避けるのでは無い。

自然は生きた大教科書である。吾等は此の生きたる大教科書、酌みて盡きせぬ自然の泉の教科書より何物かを學ばんとするのである。

紅塵萬丈の巷から、遙か幾千尺の高原に移れば、誰でも其心何となく澄み渡つて、眞劍に考へることになる。氣清くして、肌薄寒き高原に身を置いては、何人も何か學修して見たくなる。

かゝる次第で、諸種の教科の學修は各自の內部から發動して來る自然の要求とも言ふべく、可なり有効である。かくて本校林間學校では、自然の一般研究以外或は英語に、或は數學に、或は圖畫に、或は自由讀書に、一日の數時を費すのである。大自然に接すること其れ自身が、身心に幾多の彈力と活力とを與ふるに加へて、此等の學修を以てすれば、其の賜物は少くないと信ずる。

又平生親しく接する機會を得なかつた教師と生徒とが、朝夕食を共にし、寢を共にすることは、相互の間に深い理解と厚い同情とを成立たしめる。其の教育上の價値は、得難いものである。

身心の一般修養、教科の學修、教師生徒の人格的接觸、これ實に我が日本アルプノ林間學校の目標である。唯宿舍の關係から、人員を約八十名と定め、第二第三學年生徒に限つて、他學年に及ぼし多人數を收容し得ぬ事を遺憾とする。

以上の趣旨によつて、七月廿日より八月十日迄、三週間、長野縣南安曇郡、有明村、中房溫泉に於て、成城高山林間學校を開催する。此の地海拔五千餘尺、日本アルプス中央の一重鎭燕岳の中腹に位し、氣候冷涼、加ふるに天然の溫泉豐富で、戶外浴の施設もあり、特に宿舍は溫泉場主の好意で、林間學校に專用として、利便が多い。且つ此地には百瀨氏經營の一旅舍あるのみで、更に他の飲食店等弊害となるべき物もなく、誠に淸淨の仙境である。

教科の種目は、當分英語、數學、一般科學（general science）、圖畫、體操の五科とする。　以上

此の第一回の試みに當つて應募した生徒は、二年生十九名、三年生十八名、外に校外生四名で、總數四十一名、澤柳校長が自ら指導者となつて同行し、長田文學士が英語を擔任し、精華女學校教諭河西駒吉氏が應援してくれ、小學校

主事藤本氏も出張し、山岡教諭が數學及自然研究を受持ち、渡邊教諭が美育を擔當した。そして七月廿日夜行の汽車で出發した。翌日中房に着いて、愈三週間の林間學校生活が始つた。

當時の校舍は、溫泉場の南方の一棟の中で（今は此の客舍は改築されて更に立派なものになつて居る）、其の設備は次のやうなものであつた。

一、寄宿舍、六室、炊婦部屋一室、寢具類部屋一室。

二、講堂、時々の講演會、茶話會、演說練習會等の爲めに使用す、二十疊敷（二室取拂ひ）。

三、地圖繪畫、室內に日本アルプス地圖の大幅を掛け、尙山に關する內外の名畫、寫眞等を陳列して、以て美鑑賞の一資料とする。寫眞は手塚氏の名寫で、全紙版のもの十葉ばかりと、カビネ版十數葉、いづれも日本アルプスの壯觀を撮影したもの。

四、用具、黑板、オルガン（是は有明小學校より借用）、机（林間に持運ぶことを得）。

五、携帶品、自然研究に關する顯微鏡、解剖刀、磁石、磁針、望遠鏡、寫眞機、クリノメター、氣象觀測器械、寫生用具、化學實驗用具及樂器。

六、衞生方面の設備、救急藥品及普通の解熱劑、下劑等。

七、圖書室、寄宿舍の一室をこれに充て、書冊二百冊許りを備へ、生徒の閱覽に供した。

授業の實際

一、學課補導、英語、片山氏 Summer Reader 第二卷、第三卷。數學、二年代數、三年幾何。

二、自然研究、附近地質地文の研究、溫泉地の研究、燕岳登山二回、高山植物研究、光蘚の研究、措葉法指導、附近動物研究、天文、(星の色光度、銀河の觀察、)氣象觀測、(氣壓、氣溫、濕度の觀測)、顯微鏡實習。

三、美育、燕岳登山によりて、日本アルプス壯美の鑑賞、寫生、音樂。

四、講演會、學課の外一週二回位溫泉滯在の名士を聘して、公開して浴客にも聞かせて、社會教育の一助とした。其の主なるものは

高山動植物の特徴及氷河論、　松本女師校長　矢澤米三郎氏

開戰當時に於ける歐洲の社會狀態　歩兵大尉　永田鉄山氏

交戰國の國力比較及兵器　同　上

日本アルプス概觀及地質鑛物　長野高女教諭　八木貞助氏

山岳と心身の修養　日本アルプス學會幹事　手塚順一郎氏

林間學校の價値　校長　澤柳政太郎氏

五、歸途見學旅行、松本で下車、片倉製糸工場、松本城を見學し、篠井線中から姥捨、川中島を望み、長野に一泊、善光寺、城山館に上り、林檎畠を見學し、上田、輕井澤、淺間山、碓氷峠等を車中に見學す。八月十日上野歸着。

林間學校の生活

一、日課、別に細目を設けなかつたが、大體左の如く行はれた。午前五時起床、入浴、附近高原散歩。

七時朝食。

八時より十一時迄學課(この間一回休憩、教科二科目を課す)。

正午晝食。

晝食後午睡。それより附近林間道遙、川狩、植物採集、野球、徒歩競走、體

操、讀書。

四時から五時半迄學科復習（午前中及午後の疲勞ありし時は畧す）。

六時夕食。　夕食後子弟集合談笑。

三日に一度位茶話會、餘興。

高山に於ては病魔無しと言はれて居るが、一般によく三週間の永きを健康狀態で經過した。泉質の影響であつたか、下痢を起したものが二三、頭痛を患つたものが二、其他は林の中で遊戯した時の輕少な擦過傷位に止つたのは、醫師の無い當時の此の地としては幸であつた。入浴は日に二回位が適度のやうで、下痢は入浴頻數の結果では無いか。又頭痛は氣壓の何かの影響では無いかといふ研究問題を殘した。

經費

此の年は出發の始めに當つて一人につき教師生徒とも十六圓を徴收し、次のやうな決算ですんだ。

一金三圓七十六錢、往復汽車賃。

一金九圓八十七錢、中房滯在宿費及長野一泊費。

一金五十錢、副食物等。

一金四十九錢、登山費、其他雜費。

一金一圓二十錢、有明―中房荷物運搬費。

合計金十五圓八十二錢。

差引金十八錢、割戻し。

但し外に一般費中に學校から五十圓許補助が有つて、荷物運搬費接待費等に充てた。

こんな安い經費で三週間の生活が出來た事は、今から考へると、驚嘆に價することで、中房場主の非常な好意で、一日の食費五十錢といふやうな格外な安價で出來たものである。

結果

三週間の授業その如何に効果あつたかは、俄に之を判ずることが出來なかつたが、兎に角環境を轉換し、山地で受けた自然の影響は蓋し少なくないものが有つたと信ずる。畧言すれば、涼しい所で勉强が出來、非常に面白かつたといふ印象が深く生徒の腦裏にはいつた。更に精神的に言ふと、克己、忍耐、勤勞の習慣を快樂の中に養ひ、此の英氣を以て第二學期に奮鬪することが出來たのである。

更に身體に及ぼした影響は可なり大のやうで有つた。卽ち體重の變化を其の當時調査したのに就いて見ると、次の表のやうで、三週間の林間學校生活の間に、平均して稍體量を增し、更に歸來九月に至つて餘程增加をして居る。

	體量增減ノ人員		體量一人平均		差引平均
	增	減	增	減	
自四月廿三日至七月二十日（八十九日間）	九	二五	三〇三匁	四五六匁	二五五匁減
自七月廿一日至八月八日（中房滯在十九日間）	二八	一一	三四五	三一五	五一五匁增
自八月九日至九月三日（二十七日歸京中）	三一	六			一五〇匁增

以上の實施と結果を、山岡敎診が澤柳博士主催の「日曜會」に報告して、敎育諸家の批評を乞うた。そして更に詳細を同年十一、十二兩月の「敎育學術界」誌上に發表した。

第五章　沿革

○大正八年（第二回）

七月二十日から昨年のやうに三週間やつた。

去年から成城中學校には別に山岳隊といふものが組織されて、日本アルプスの諸方面に登山した。其の山岳隊の各隊も出發の時には林間學校生徒と共に飯田町を夜行の汽車で出發して、列車の中が頗る賑つた。そして山岳第一隊は有明の驛から直路大町へ向つたが、第二隊は有明で下車して林間學校の生徒と共に峠路を中房へ向つた。

林間學校の一行が枋の木峠を越えて、信濃坂へかゝる頃に、突如大雷雨がやつて來た。一天暗黑で電光もの凄くきらめいて、車軸を流すやうな豪雨に頗る

辟易した。木の下と言いず岩蔭といはず、寄るべき雨蔭が無くて、道には時ならぬ奔流がほとばしり、膝を沒する所さへ有つた。勿論外套などの雨具は皆用意して居たけれども、それに雨がすつかり通つて、文字通りに、濡鼠となつた。中房は目の先に見えて居ながら、合戰澤が俄に氾濫して渡れないので、川の手前に二三十分間も立往生した。先發隊は既に溫泉場に到着して居たので、急いで人夫を出して貰つて、應援に行つたが、合戰澤を挾んで相呼應するだけで何とも出來ぬ。半時間もたつて、暫く雨がやんで、水が減じたので溫泉場へ着くことが出來た。そこで濡れた服を脫いで直ぐ溫泉に飛込んで身體を溫める。盛に焚火をして濡れた衣物を干す。實に前後に稀れな大雷雨で、山岳隊と雖もこんな豪雨に逢つた事が無い。かくして山中の大雨といふものに對する感念が得られて、稀なる尊い敎訓を得た。今年の授業は大體去年のに準じて次のやうな

ものであつた。

英語、　長田敎諭、渡邊敎諭、

數學、　自然科學、國枝敎諭、

美育、　渡邊敎諭、

英語の敎科書には今年は Sōjō Summer Readers といふものが特に林間學校用として編纂された。そしてその中には多く山に關係ある材料が集められて、中房溫泉場の精細な記事、燕岳、有明山等の記事も有つたので、愈學習に興味を增した。博物の授業としては採集や觀察の外に、溫泉場に飼育して有つた一頭の豚を場主の好意で特に林間學校の爲めに提供されたので、國技敎諭が刀を持つて之れを解剖し、極めて有益な動物內臟研究が出來た。

此の年溫泉場主百瀨氏は成城林間學校の爲めに別に校舍を新築することを考へてくれた。そして澤柳校長と打合せて、校長は大に應援して、中房附近官有林の木材のお拂下げを得られるやうに盡力した。中房主人は松本大林區署に願出て、更に上京して中央政府に交涉し、許可をえて、極めて廉く山林の木材を得ることが出來た。そこで愈溫泉場の高臺に地均しを始めて、建築に取りかゝつた。兎に角來年の授業には新築の校舍を提供するといふ意氣込で有つた。

○大正九年（第三回）

今年で林間學校は第三年目になる。そして例に依つて三週間の授業が七月二十一日から中房で初まるわけで有つた。例の登山各隊と一所に出發して、一行が勇んで溫泉場に着いて見ると、前年から工事中であつた新しい校舍が畧落成して、溫泉場の入口の高臺に巍然と聳えて居た。早速木の香ゆかしい校舍には

いつた。建築はまだすつかり完成しなくて、部屋の押入が不完成で、天井が無かつたが、却つて空氣の流通がよくつて、夜寢て氣持ちが良かつた。生徒は大喜びで天井の梁を傳ひ歩いた事さへ有る。

授業は暑前年のやうなもので、

英語、　長田教諭、佐竹教諭、渡邊教諭、

自然科學、　國枝教諭、

數學、　牛窪教諭、

美育、　渡邊教諭、

で有つた。都合で、一週間位で交代した教諭も有つた。校長が遙々登山し、馬で峠を越えて來たので、職員生徒共に非常に元氣附いた。校長は數日滯在して、木崎湖畔の夏期大學へ向つた。

山岳第二隊をつれて烏川口から常念岳へ上つた鵜飼教諭は、槍岳、常念山脈縱走を終へて、中途から林間學校に參加した。そして林間學校生徒は山岳隊の登山談をきゝ、教諭の高山植物の講話を聞いた。

温泉滯在の名士が多かつたので、幾度も有益な講話をきくことが出來た。燕岳の登山が愈生徒の興味をそゝつた。然し一週間たつと、さすがに山中都戀しくなつた。稍歸心が動いた生徒が有つたが、皆よく心棒して、豫定の生活を終へた。歸途は松本を見學し、長野に下つて善光寺附近を見學した。そして無事信越線で上野へ歸着したが、此年には三週間といふ期間が稍生活を飽かしめるものが有る。少し長過ぎはせぬかといふ疑問が起つて、研究の題目となつた。

○大正十年（第四回）

今年からは、三學年の主任教諭が林間學校大部分の生徒の主任だから、林間學校の主任になるといふことになつた。そして萬般の手筈が定つて、七月廿日に登山隊と同行で出發した。校舍が今年は完成して居たので、愉快な生活が出來ることになつた。そして登山隊は一日林間學校に滯在して登山準備をした上で。槍岳に向つて出發した。去年の研究の結果、今年は林間學校の期間を試みに二週間にして見やうといふことになり、其の豫定で進行した。授業は

英語、　嶺教諭、
數學、　江原教諭、
自然科學、　和田教諭、
美育、　霜田教諭、

で有つた。植物の如きは、頗る研究的に進んで、中房附近植物の標本が集り、毒草、食用植物、夏期開花植物などの研究が出來た。

これより先七月中旬、校長が歐米戰後教育視察の命をうけて、海外に出發した。そして來年の六月には歸朝の豫定であつたから、校長にお願して山岳及林間學校に關する調査と書籍とをお土產に頂くことにしておいた。來年校長の歸朝の時には豫定の如く、我が林間學校に研究資料を頂くことが出來るわけである。尙ほ校長の歐洲へ出發に際しては、林間學校應援の寄附金を校長から頂いて、それで、生徒は更に愉快な生活をすることが出來た。林間學校歸途の見學旅行其他も、約前年と同樣なものであつた。

例の成城山岳隊は今年も一週間の縱走を終へて、また林間學校開催中にこゝへ歸つて來た。別の登山第一隊（烏帽子、槍、常念山脈縱走）も林間學校へ立寄つて靜養して下山した。かくして林間學校は同時に成城山岳登山部の根據地、

靜養地ともなることになつたのである。

○大正十一年（等五回）

歐米出張中で有つた澤柳校長は、豫定の如く七月中旬に無事歸朝したので、成城中學の生徒は校長を東京驛に出迎えて、間もなく例年の如く林間學校の生徒は中房へ出發した。

此年は三年主任鵜飼教諭が林間學校の主任で、多田、江原、山岡、霜田の諸教諭が參加し、更に立教中學教諭赤沼氏、霜田教諭の弟詩人霜田史光氏も應援してくれた。授業は二週間で有つたが、中房主人の好意で、今年から運動の設備が大に整ひ、食事や其他に色々改良が出來たので、生徒の生活は一層充實して來た。ことに新設の溫泉大游泳場が非常な人氣を湧かせて、體育上に有功で有つた。今年も林間學校の期間を二週間としたが、生徒は其二週間の生活をまだ足りないと思ふものが多く、來年からは三週間の方が有功だといふ議論が湧いて來た。

今年で我が林間學校はもう五回目になる。そして益々發達して來る。世間にも可なり紹介されて來た。それから山岳高原の利用價値が世間でも近年漸次研究されるやうになつて來た。東京府立第五中學校は既に數年前から夏休中信州の田舍に田園生活を實習し、東京府立第三高等女學校も中房に滯在して我が林間學校のやうな生活を毎年やることになつた。其他東京の學校で日本アルプスに登山隊を出す學校は、專門學校にも中等學校にも、枚擧に遑なくなつて來た。小學校でも亦高原を利用して夏休中生徒の生活補導をやる所が多くなつて來た。たとへば下谷黑門町小學校、成城小學校の如き、信州の高原にそれ〴〵獨特の行動を取るやうになつて來た。山國の學校は無論のこと、天下競うて高原

或は山岳に夏期の修養を積むやうになつた事は、我國教育の爲めに慶賀に絶えざる傾向であると思ふ。

大正十一年度の我が高山林間學校實施の詳細は次章から項を別つて説明する通りである。

高山の頂きに登りなにがなしに帽子をふりて下りきしかな　啄木

長く〳〵忘れし友に會ふごとき喜びをもて水の音きく　同

今日ひよいと山が戀しくて山にきぬ去年腰かけし石をさがすかな　同

森の奥遠きひゞきす木のうろに臼ひく侏儒の國にかも來し　同

第六章　我が高山林間學校の施設

第一節　中房の地勢及氣象

日本北アルプスの連山の中で、信州の松本平に最も近い一脈を常念山脈といふ。その山脈の一高峯に燕岳（ツバクラ）といふ美しい九千餘尺の山がある。燕岳の南に中房川を隔てゝ、有明山といふ富士に似た恰好の山が有る。此の二山の間の中房川の谷に中房といふ溫泉場がある。谷といふても、此所はもう海拔五千餘尺に位して、燕岳の中腹に當るから、溫泉場のある邊りは、正に五千四百尺の高度を示す高原である。溫泉の直ぐ西には切り立つたやうな燕岳が聳えて、其の南面山脈の傾斜が少しく緩で前述の有明山と接する邊り、稍平坦に開けた所が卽ち溫

泉場に當る、だからこの溫泉場は山間とは言ひながら、南に日を受けた爽快な開地である。中房川の谷は北から南に走る狹い溪谷で、清冷の溪流が白沫を吹いて滾々と流れて居る。川を隔てゝ東側には、有明山の雜木林が直ぐ目の前に屹立して居る。溫泉場からは、後ろの燕岳の絕巓も前の有明山の頂上も直接には見えないが、何れも半日の行程で容易く登山することが出來る。

後ろの燕岳からは、別に合戰澤といふ澤が下つて居て、その澤の溪流がこの中房川と合する合流點が、卽ち溫泉場の高原である。數百年の昔から、この合流點の三角形の河成堆積地の上の岩から溫泉が所々に豐富に湧出して、中房川に落込んで居たらしいが、其の溫泉は含有物を絕えず岩石の上に沈澱させて居た。また一方中房川が時々雪消の增水や暴風雨後の出水で、汎濫するので、其の水の運ぶ土砂が此の溫泉の沈澱岩の上を被ひ、更に沈澱物と交ざる。かういふ事が絕えず繰返されて幾百年を經たのだから、此の堆積地が漸次廣がつて稍平坦な岡を成したのである、そうして沈澱物と土砂との混合層は漸次厚さを增し、其の重量の壓力は遂に其の下部を岩石としてしまつたのである。今でも地下を堀つて見ると、この混合層の岩が一ぱいに現はれて來る。現に最近溫泉場一部の客舍改築に供ふ工事の爲めに、川岸の岡の一部を切開いた所を見ると、此の種の岩石が一二間の厚さの水平の層をなして、頗る明瞭に此の地成生の歷史を語るものが露出して居る。この層の間には、昔川岸に生えて居た蘆の根が化石して無數の穴を止めた面白い石と成つて見える。この丘の成生は、地質學上頗る興味深いもので、我國では此の種の岩石がさう多くは他所では見られないさうである。

先づ下の峠から上つて來る浴客の目にうつる中房附近の狀景を述べて見ると

斯うである。信濃坂の峠路が終つて、いよ〳〵中房の谷間にはいると、先づ河原に出る。中房橋を渡つて川の右岸に沿うて上ると、緩傾斜を成した南向きの芝生に達する。芝生が終る所に合戰澤の溪流が左から來て、中房川に合する。合戰澤の川を渡つて進むと、直ぐ上が溫泉場である。左手に先づ道のすぐ上の石垣の上に成城林間學校の新築校舍が見える。校舍の直ぐ北は溫泉場の平坦な運動場で、其の左側は稍高く、溫泉場の本部と上等客舍が連り、上等客舍に向つて右側の丘からは盛に溫泉の湯氣があちらからもこちらからも立上つて居るのに目が付く、更に運動場の東は一段低くて、溫泉事務所と、新築の客舍などが連なり、中房川の岸の崖に終つて居る。此の客舍の北は川に沿うて漸次上り坂になり、尙一寸離れて白瀧の湯といふが有り、それから上は川の上流の深い狹い溪谷となつてしまふ。

中房の氣候は高原の氣候で、而も餘程高山の性質を帶びて居る。毎年五六月の候迄は雪が有る。七月には皆消えてしまふが、八月と雖も日中汗のにじみ出ることを殆ど知らない。其の清涼の氣持よき朝夕は、到底都人士の想像出來ないところで、箱根や日光も遙に及ぶ所でない。麗らかな晴れた日でも、日中戸外で帽子も無くて日向ぼつこに丁度適する位なのが普通である。雨の續く日などは、浴衣一つでは寒い位で、メリヤスのシャツか或は單衣を重着しても、まだ寒い事もある。何でも平均溫度が夏六十度だといふから、正に都の四五月の氣候と言へやう。中房のすぐ上の燕岳では七月の下旬に櫻の花が滿開である。

氣象は高山性を帶びて居るから、晴雨が實に豫測し難い。七月の候が最も天候の定つた登山に適する時と言はれて居るが、此の時期と雖も、昨日快晴であつたのに、今日は朝から山雨盆を覆すのに驚かされることが珍しくない。午前

の晴も午後の雨となり、午後の雨も夜の明月となることが稀で無い。そして溪谷の下から朝霧が湧いて來て、燕山腹から有明の峯を包み、徐々として温泉場を襲ひ、障子を開ければ、部屋の中へ霧がどん〳〵と侵入して來るので、坐して羽化登仙の思をすることが多い。晴れた日に、仰いで燕有明二山の間の「狹められたる天空」を望めば、紺碧深く潜み渡つた秋の氣持が夏の最中にひし〳〵と迫つて來て、足下に咲く撫子や伊吹麝香草に夏の塵を忘れるのである。晴れた夜、萬籟寂として、只温泉の瀧の音のみ淙々たる中に、野天の湯に靜かに身を浸して、星の呀えと月の利鎌を仰いで見る事などは、忘れられぬ中房の印象である。

盛夏八月と雖も、うるさい蚊帳をつる必要が絶對に無い。朝日のさす前に床を起き出で、食前の散歩でもすれば、只さへ食慾が進む時に、いよ〳〵朝食が待遠しくなる。

第二節　温泉及附近の自然

中房の温泉は實に豐富なものである。始め數百年前に今の温泉よりも下の河原の眞中に湧き出たものが始めて發見されて、やがて今の澤山の温泉が利用されたものださうだが、現在では此地で最も利用されて居るものは、何れも浴場の北側の小高い花崗岩から湧出するものである。温泉は質が滑かで、無色透明で、温度が頗る高い。湧出の場所は無數であるが、其の重なるものに付いて言へば、凡そ三つの系統に分つことが出來る。

第一は岡の高い部分に湧出するもので、最も高い所に出るのが、大彈正、小彈正、小鍋立（コナベダテ）などで　總稱して彈正の湯と言つて居る。皆温度九十度以上で、

ことに小鍋立の如きは、九十四五度に達して居る。一體この海拔五千餘尺の中房では、水の沸騰點が九十五六度であるから、この溫泉は殆ど沸騰して出て來ると言つてよい。だから浴客が野菜雞卵などを持つて行つて、其の中に入れると、短時間で立派に其れが茹つて、直ぐ食用出來る。小鍋立などの名稱も、こゝから出たわけで有る。もし浴客が附近の山で蕗でも採つて來て、此の湯に入れると、趣味ある料理が直ぐ出來る。溫泉場の島の馬鈴薯でも持つて來て入れゝば、其のまゝ卽席のおやつが出來る。

或る學者の研究に依れば、此等の溫泉の中には、此の高溫度でありながら或種の生物が棲息して居さうだといふ。現に彈正の湯が平地を流れて通る溝の中などには、可なり澤山の生物が繁殖して居るのが見える。卽ち

一、硫黃バクテリア、ベキアトア（普通）、クロマチウス（甚稀）。

二、藍藻類一種（比較的多量）。

林間學校の上の岡の大游泳場中の溫泉は、溫度こそ低けれ、其の中に多量の藻類が棲息して居る。そして其の繁殖の旺盛なるは、驚くにたへたるもので、每日溫泉が入れ代つて居り、數十百の學生浴客が盛に中を游ぎ廻つて居るにも拘らず、忽ち湯が綠色を呈して來て、藻の繁殖が目について來る。そして一週間もすれば、どうしても改潔の必要が起つて來るのである。

第二は瀧の湯で、此れも可なり丘の高い所から湧出して、溫度が高い。昔は此の湧出口は珍しい間歇泉であつたといふが、彼の安政の大地震の年、其の影響で一時噴出が止つてしまつたといふ。そして間もなく復出るやうになつたが、今度は其の間歇性を全然失つたさうである。そして此の湯は丘の斜面を流れ下つて、溫度は稍低くなる。下では此れを幾條かの樋に受け、其の先端から數條

の瀧として浴槽に落下させる。浴客はこゝで盛に唄を打たせて居る。

第三は白瀧の湯である。溫泉事務所から中房川の右岸を二丁ばかり上ると、幽邃な谿谷中に離れた浴場が有る。丁度お宮で言はゞ奥の院といふ格である。白瀧の湯の湧出口も亦二三十間上の岩石の間に有るが、ラヂウムを含有すると言はれ、効能が著しい湯だと信ぜられて居る。

此の三系統に屬する溫泉の湧出口はまだ別に幾つも有るが、如上のものが其の主なるものである。溫泉の性質は多くはアルカリ性で、白瀧の湯は中性反應を示して硫黄を含む量が多い。アルカリ性のものには、明礬類の含有物が多く、脂肪を頗るよく取るから、久しく湯治をして居る間には、すつかり皮膚の脂肪が無くなる。皮膚をあまり擦り過ると往々にして破れることすら有る。洗濯物をする時には、石鹼は一切不要である。

農商務省地質調査所の溫泉分析表によると、成分は左に示す如くで、醫治効用は、リウマチス、痛風、胃腸病、貧血諸病、皮膚病等とされて居るが、此の土地が高原で清冷幽閑な別天地なるが爲めに、神經衰弱的の病人には最も適するやうである。只脚氣、心臟病の患者は、山地だけに、上つて來ることが既に不適當で、來遊が不利である。

溫泉分析表（農商務省地質調査所）

定量分析十萬分中

	彈正湯		河原湯		白瀧湯		瀧の湯	
反應	アルカリ性		弱アルカリ性		中性		アルカリ性	
比重（攝氏十五度）	一、〇〇		〇、九九		一、〇〇		一、〇〇	
全固形物	七一、四〇		四五、八四		五五、二〇		一一三、六七	
有機物	六、四八		五、四二		二、八四		一四、二二	
酸化鐵及礬土	〇、七〇		〇、七六		〇、三四		〇、九六	

硅酸	二二、七二	一五、三六	一七、五八	二二、七一
カルシウム	〇、二三	〇、二二	一、一〇	〇、八六
マグネシウム	現存セズ	〇、〇二	〇、〇二	〇、〇二
ナトリウム	一四、一二	四、五五	九、五五	三四、〇二
カリウム	二、八七	〇、七〇	三、六一	二、九八
硫酸イオン(SO_4)	六、五〇	三、六二	八、三〇	五、五五
アンモニヤ	痕跡	痕跡	現存セズ	痕跡
燐素	一二、二二	七、五八	七、九八	一二、六五
炭酸	八、九〇	五、八〇	六、九〇	多量ニ現存ス
硫化水素	〇、七〇	〇、三九	〇、九〇	〇、五五

浴室は幾つも有るが、客舍につゞいて居るものを內湯と稱へ、別に離れて外に有るもの及び野天の湯を外湯と言つて居る。外湯の中に特に面白いのは、大彈正の湯の流れて下る下に當つて、客舍の背後にある一つで、四面天然の岩石で、古風質素な浴槽が有るが、此れに浴して居ると、室內のものよりは却つて氣持が爽快で、晴天には青空を頂いて、あたりの岩石深林の美しいのが眺められ、晴れた夜には、星の美しいのを仰いで、山の端にかゝる明月を賞することが出來る。雨の降る日に傘をさして湯に浸つて居るごときは、他所に見られぬ光景である。此の原始的な浴槽は特に都人士には珍しくて興味が有らう。外人の此の地に遊ぶ者が、此れを見て喜び、寫眞にして外國の雜誌に掲載したのも既に十何年か前のことである。

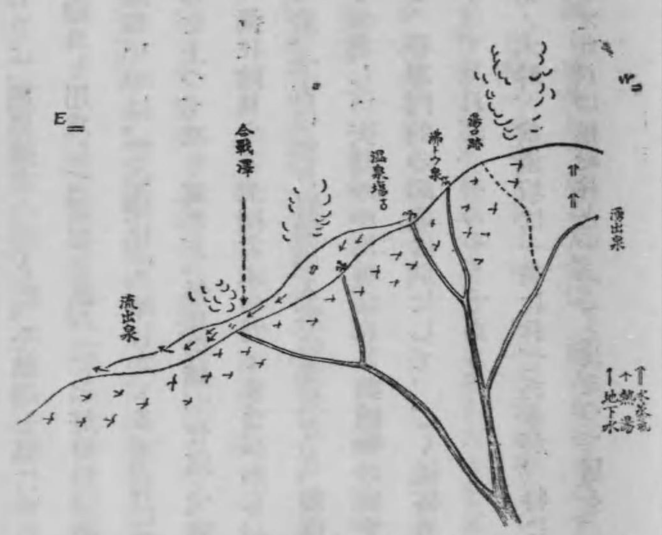
蒸湯といふのは、浴槽無く、所謂「蒸風呂」で、立てこめた一室內に湯氣を籠め、床(ユカ)の上に蓬の莖葉を敷いて其の醫療の効果を助けしめて居るものであるが、密閉した室內に湯氣の濛々たる誠に息がつまるやうな氣がして、却つて不愉快である。

大正十一年に溫泉を湛へた大游泳場が、林間學校の上のあたりに出來た。五

間に十間の長方形のプールで、四方に石垣を積み、內面に板を張り危險を避けて居る。湯の深さは淺ク一方が三尺位で、深い方が五尺弱、優に學生の游泳に足るのである。

一體溫泉に浴する時には、只靜止して湯につかつて居る事も老人には良からうが、青年少年血氣旺溢のものには退屈な業である。中で運動が出來れば最も効能が大となる。近年米國人の研究に依れば、溫泉の人體に及ぼす効果は、入浴中運動を盛にする時最も著しいさうで、米國で有名な浴場には、多く大游泳場の設備をしてある。我國では此の種のものがまだ少いのに、獨り此の中房溫泉にこの設備のあるは、場主の慧眼の致す所で、林間學校の目的が體育にも有る以上、此の種の設備は、得がたき便宜である。そして、獨り林間學校のみならず、一般浴客の浴する恩惠も亦多大である。

中房溫泉の系統（長野高等女學校教諭八木貞助氏に依る）



（體育の條參照）

現今の溫泉場より少し下の河原に豐富な溫泉が湧出して居るが、今タンクに之を集めて、木管を以て下の峠路三里を導下し有明溫泉となつて居る。しかし湯の溫度は著しく降つて再び沸かして用ゐる。

中房の天地は狹い谿谷と言ひながら、峻嶺二峯にはぐくまれた高原だけあつて、山妻水容の

美しさは、塵界雜沓の巷とは、全然趣を異にする。もし寫眞機を携へて滯在するか、繪具を用意して寫生を試みたら、好材料が至る所に見出せる。その中でも一番面白いのは、雲の變化で、峯にかゝる雲、谷に湧く雲、頭上から下りて來る雲、谿谷を上つて來る霧など、毎日の趣が皆違ふ。溫泉の湯氣が至る所に立上るから其の間に陰見する老樹古木のたゞすまひから、斷崖に掛かる溪流、奔流に臨む河原の岩、太古の如き岩間の入浴の光景など、幾度見ても飽かぬ眺めである。

この美しい天然の中に養はれる動植物の研究は、學徒には最も貴重なことである。今專門的の記述は別にして、ごく通俗的に人の目に映る自然科學の材料を擧げて見れば、次のやうである。

枋ノ木峠、信濃坂は一帶に林であるが、特に信濃坂のあたりは、理想的な楢の林で此れは模範林といふことになつて居る。其の美しい高い眞直な幹が目の續く限り密生して居る光景は、旅人をして必ず杖を止めしめずには止まないであらう。植物の分布を言ふ時、此の濶葉樹帶といふものを見逃してはならぬ。信濃坂で白樺の大木が道ばたに見えるあたりを寫眞に撮影すると、立派な學術的な林の寫眞が得られる。

合戰澤の下の芝生の邊りには、もう高山植物が色々現はれる。七月の頃、伊吹麝香草の群落が、可憐な花の滿開で、一寸路傍の樹蔭に立寄れば、イワカヾミやイチヤクサウの光澤ある葉に花を交へたのが見える。芝の間に交る可愛いネヂ花の可憐さ、水邊の河原撫子、山ハハコの優しさも捨て難い。

一寸燕岳の方へ登り始めると、白樺の林が見られる。もう針葉樹も大分交つて居て、ことに樅類と落葉松、あらゝぎなどが目につく。ことに落葉松の喬木は樹容に趣味が有つて、高原を思はせるものである。

川向ふの有明の山は、見る限り美しい雜木林(ザウキバヤシ)で、秋の錦が偲ばれる。眞實の雜木林といふものを此所で見學することが出來る。

溫泉場の後ろの林は松林で、あの邊に學生が天幕生活でも試みたら、絶好の場所である。更に其の松林を拔けて燕の山服に攀ぢれば、可なり大なる斷崖が有る。もし學生がアルペンストックかピックアックスを用意して來て、ロープを應用して岩石登攀の練習をやつて見ると頗る有益である。但し此の邊りは餘程危險が伴ふから深甚の用意を必要とする。

附近の山の雜木林の間に石楠(シャクナゲ)が見出される。これは尊いもので、幹の直徑三寸を越えるもの、或は細くても幹の長く直立するものは極めて珍しい。高山植物として今は採集を禁じられて居るが、溫泉場の地籍に屬するものを採つて事務所では箸其他の細工物を作つて居る。更に細工の出來るものには、藤の蔓の大なるもの、氷松(アラギ)、白樺の皮、白口(シログチ)などが有る。

附近で容易く採集出來るもので、食用になる植物は、蕨、芹、山土當歸(ヤマウド)、蕗(フキ)、苺(イチゴ)、山葵(ワサビ)、山葡萄などが有り、つりがね人參、あざみの類迄食用に足りることを學ぶのも有益であらう。秋の候には初茸、椎茸、栂荻(ツガダケ)、混地茸(シメジ)、まい茸などの菌類が有る。

高山植物は多く藥用になるが、其他の藥草で手近かに採集出來るものは、心得ておくことが便利である。たとへば白花のからまつ草、淡紫色花のげんのしやうこの如きは庭先きでも得られるし、赤紫色の花を持つふうらう草の如きも容易く得られるのである。藥用植物を研究したら、同時に毒草も調べておく必要がある。中房の附近岩石の洞窟中に光蘚の繁茂して居る所が諸所にある。一體信州にはこの光蘚が諸方に發見されて居るが、此の附近のものも美しい青銀色

を放つて見える稀品であるから、心なき人々の破壞の杖にかゝらぬやうに、學術の爲めに充分保護することが必要であらう。

燕岳一帶が花崗岩であるから、中房の領分は無論御影石の岩ばかりである。然し多くは風化して表面褐色を呈して見えるが、河原に横はる石は何れも白くて、堅牢絶好の石材である。この岩石が風化して出來た砂は美しいものである。嘗て學生を伴れて溫泉場の後ろの丘で天幕生活をやり、雨中飲焚の練習をやつた時に、雨水增した谷川の澄んだ清水とのみ思つて飯を炊いた所、目に見えぬ透明の石英の細砂の爲めに飯の一部が齒に當つて食ふ事が出來なかつた失敗も有つた。花崗岩のあたりの水を用ゐる時は、必ず布を以て一度濾過することを忘れてはならぬ。

溫泉の湧出する丘の更に北の高い所へ二三丁登ると、眞白な美しい砂礫の丘が有る、此所には明礬と硫黃とが、長石や石英と混じて砂の間から盛に出る。此の丘の一部は特に地熱が高くて、噴火口の一部では無いかとさへ疑はれる位である。もし其の熱い砂の中へ足を踏込めば、足は怪我するであらう。嘗て溫泉場主が此所へ案内して呉れて、馬鈴薯を持つて來て、ハンケチに包んで熱い砂中に埋めた。暫くして取出して見ると、上等の蒸し芋が出來て、卽席で鹽を附けて賞味した。更に場主はブリキの鑵に米と水とを入れ、牛肉の切片を加へて其のまゝ砂中に埋めた。十五分ばかり經つてから取出して見ると、鑵は手のつかぬ程熱くて、中の米は上等の牛肉飯となつて居た。雞卵などは最も容易く此所で蒸すことが出來る。此の地熱を利用して溫室を造つたら、冬期雪中と雖も靑い野菜が得られるだらうといふので、色々設計したさうだが、惜い事に此所から硫化水素がたへず上昇して居るので、この瓦斯を取去る工夫が出來ぬ限

り、室内の植物は枯死してしまふわけだから、遂に計畫が實行されなくてしまつたといふ。然し冬期他所が積雪丈條の場合にも、此の丘だけには雪を見ないのだから、何とか利用の方法も有りさうなもので、此れが研究の好題目であると思ふ。

白瀧の湯より更に上流の山地に明礬と白土が出るさうで、一時明礬は此所で精製されて、此の温泉場の産物の一つに數へられて居たが、今は無い。白土も多少用途が有つたさうだが、今は利用されて居ない。

温泉の硅花と川の土砂とが混じて出來た岩石の事は前に述べたが、今新築客舍の直ぐ下の川に面した崖の中によく見える。その蘆の根の穴ある石を加工したら、面白いものになるであらう。

動物は此所の谷にはさう多くない。昔は猿が澤山居たさうで、猿が報恩したとか、犬と戦つたとかいふやうな傳説が殘つて居て、現に猿を見たといふ人々も澤山有るが、今では先づ見ることは出來ない。兎は居ない事も無いが豐富では無い。とかげや蛇の類は居るが、此れとて著しくは無い。小鳥も少しは居るが、種類がごく少い。昆虫に至つては、高山だけに尚更數が少い。只高原に多い種類の蝶類は可なり人目に附く。即へうもん蝶族、ひかげ蝶族が最も多く、其他の昆虫では蟬は八月にもさう多く居ないやうで、蚊は絶對に居ないこと前述の通りである。只蠅は仲々多い。これは普通人里に居る物の外に、頗る大形の強いやつが蝟集してうるさい。この大形の蠅は多くは山中の木株の腐つた所に養育されて、漂然として人のけはひの有る所を襲ひ、忽宛として山中に去るものだと信じられて居るから、其の驅除法が最困難である。然し清潔と衛生を嚴守して戸外の掃除を完全にすれば多く防ぐことが出來ると思ふ。

中房の附近には川に魚類が殆ど棲息しない。只「かぢか」と稱する物位である。此れは溫泉が皆川に注入する影響であるといふ。然し信濃坂の下流稍水量多い碧潭には嘉魚(イワナ)が居て馴れた人は之を釣ることが出來る。溫泉場に切角美しい河流が有つても、魚の居ない事は殘念な事である。彼の上高地に嘉魚の豐富なのは、誠に羨ましい所であるから、著者は嘗て溫泉場主にすゝめて、溫泉より上流に何かの魚を繁殖させる道を講じでは如何と言つた事が有るが、不時の出水が頻々で、養魚の事が困難だといふ。せめて鱒でも川に棲息したらばと、常に嘆を漏すのである。此の魚類の繁殖を講ずることも確に研究の好題目だと思ふ。

第三節　林間學校の準備

四月の花が散り、五月の終りか六月始めの修學旅行がすんで、第一學期がもう半ばといふ頃になつて、晴れた日に少しく熱さを感ずるやうになると、そろ〳〵山を思出す。修學旅行が濟むと、直ぐ林間學校の準備に取りかゝる。

第一に費用の豫算を測定して、參加の教師を囑托する。一體夏休みは、一般に學校の教師には、一年中の大切な自由の時では有り、殊に林間學校は山のことだから、誰れにでも行つて貰ふわけには行かぬ。而も學科が色々に渡るから、教師を囑托するにも、相當に準備を要するのである。

教師がきまつて、授業の豫定が確立すると、中房へ通信して、其の年の物價で滯在間の食費を協定する。これで大體の案が確立するわけだから、更に往復各地の必要な所へ照合して打合せをし、發着の時日を確定する。

そこで生徒に宣傳をする。宣傳といふと、言葉が大げさだが、詳しい說明を

するわけだ、此れで生徒の志望者も愈々考へ始める。

此の頃丁度本校の山岳隊も夏休中の登山計畫を始めるから、其れと共同して、山岳講演會を開き、名士を聘して講話をきき豫備智識とする。一方山岳展覽會を開催して、山に關する智識を一般生徒に詳細に知らしめる。展覽會には、先づ林間學校に關係ある一切の品物を陳列し、林間學校準備品から、登山準備品、天幕生活の模型から、往復見學地に關する書類、地圖、畫はがき、繪畫、寫眞、標本など迄揃へて陳列する。一切の說明の印刷物などを配布する。或る場合には、活動寫眞會や兒童劇なども催して、興味をそゝる。そして此等は殆ど全部本校生徒の催しで、主として上級生が主腦になつて、活動するのである。

一通り豫備智識が普及して、生徒も參加を考へ始める頃になると、ことしの林間學校計畫の概畧を印刷して生徒に配り、父兄にも學校から通知する。そして愈々志望者の募集を始める。志望者の應募が一通り纒ると、そこで校醫に托して、希望生徒及び參加職員の身體檢査をやる。この序でに體重其他も計つて、體育に及ぼす影響調査の材料も造る。生徒の學科成績も一通り調べて、學術に及ぼす影響調査の材料も造る。そして此等を考へて、參加者の選擇を始める。

在來世間で普通に所謂林間學校と稱するものは、多くは海濱か平地かに設けられたもので、主として病弱の兒童の恢復を目的とするものであるが、我が林間學校は、高山林間學校で、健康な者に學科の越味ある補充をし、兼ねて體育に資するを目的とするのだから、志望者にして健康なるものは、全部率ゐて行きたいのだが、それだけの設備が無いから、先づ二年級と三年級の中から、有志を募集する。志望者が定員を超過する場合には、身體の健康な者から選び、尙ほそれでも超過する場合には、抽籤できめる。二三年の生徒を取つて、尙餘

裕ある場合には上級生も選擇して取ることにして居る。

中房は山地で、物資が豐富と言へない。從つて食品もまだ理想的といかぬから、一部の復食物の携帶に便なるものを東京で求めて、送ることが便利である。多くは階行社あたりと交渉して、適當な食料を整へる。

林間學校で使用する教科書も、例へば英語の如きは、夏休讀本の如き普通な既成品では充分間に合はぬから、特に本校で編纂した教科書を調へる。教授用の印刷物も準備する。

こんな準備をやつて居る中に、第一學期も終りに近づいて來る。そこで確定した參加者を集めて、改めて出發に關する一切の注意を與へる。

第一學期が終つて愈夏休みになると、二三日の準備の日を置いて、荷物を整へる。そして其れを纏めて、愈出發の途に上るのである。

今左に毎年實施する所の準備を、始めから日を追うて日記の體に現はして、參考にしやうと思ふ。

六月十日、本校幹部と林間學校主任とが打合はせて、本年度林間學校の豫算、日數、發着の豫定を確定する。

六月十二日、林間學校參加の教師の交渉はずつと前から既に始めて居るが、更に確定の豫定で此の頃始めて居る。

六月十五日、中房へ第一回の通信を送り、本年林間學校の食費を問合せ、本年計畫の大樣を通知する。

六月十九日、今日から生徒に宣傳を始める。

參加の教師が一通り定る。

六月廿日、山岳講演會、
　　山岳展覽會、
　　山岳活動寫眞、

六月廿一日、生徒に次の印刷物を配る。

(一)林間學校行程概念圖。

(二)林間學校計畫及參加者準備品概要。

(イ)場所、長野縣南安曇郡有明村中房溫泉場林間學校。

(ロ)出發、七月廿日午後十一時、飯田町驛發。

(ハ)授業、二週間、英語、數學、自然科學(博物、氣象)、美育、音樂、手工、體育、國語、

(ニ)生活、自修館圖書の自由閲覽、講演會、音樂會、圖畫展覽會、溫泉浴、日光浴、游泳、競技、天幕生活、登山。

(ホ)學修に要するもの、各學科受持教師より言渡す。

(ヘ)携帶品、和服、寢衣、敷布、着換シャツ二枚、袴、腹卷、蝙蝠傘、下駄、手拭、齒磨等。

登山の準備は別に言渡す。

(ト)遊戯に要するもの、任意の遊戯用具。

(チ)學校自修館圖書の中、適當のものを學校より用意し、其他の運動具及醫療品も學校にて用意す。

(リ)父兄にして林間學校に在る子弟の狀況視察旁登山せらるゝ向は、御校の最も歡迎する所なり。

(ヌ)服裝、制服、脚胖、草鞋。

同時に父兄にあてゝ左の印刷物を配る。

拜啓向暑の候益御清榮大賀の至りです。偖暑中休日が近々始りますが、この四十日の休日を如何

にして有功に過すべきかといふ事は學生に取つては重大な問題で、父兄諸君と御同樣に吾々も顧を屬ます所です。勿論靜養を主とする休みですから、過大な勉强の計畫は却て成功しませんが、只慢然空費して、ふしだらな習慣をつけるのは頗る有害です。病者は靜養が何よりですが、健康者には休中一部分なりとも有意義の生活をさせたいと思ひます。

學生の嗜好により、海濱の生活、旅行なども結構てすが、周到の注意を要し、金錢を浪費し、誘惑多く、不健全な生活を養ひ易く、隨分危險も伴ひます。

吾々の經驗では、山の生活が弊害少くて、どの點から見ても有功のやうに思はれます。其れは主として次の諸點からです。

一、都會の學生を自然に親ませて、日頃得られぬ智識を樂しく得しめられること。
一、大自然の雄大な氣に打たれて、精神的に有功で、有益な記憶を永く殘すこと。
一、山地は空氣清く、氣壓低くて、頭腦明晰を覺え、勉强に最適なること。
一、誘惑少く、眞摯の氣分で生活が出來ること。
一、氣候清涼で、保健に理想的で、山嶽を利用して體育に便あること。
一、温泉が利用出來るから、一層有効です。游泳の練習も出來ます。

右の點から弊校では、信州日本アルプス中房温泉場に、本校特有の高山林間學校を經營し、毎年好結果を收めて居り、今年も一層の改良を加へて、七月廿日頃から約二週間開校する豫定で、二三年級生徒の有志者を募集して居ますから、別紙計畫豫定書の要項を御一覽の上、御保證の生徒に奮つて參加するやう精々御奬勵下され度、特に貴意を得る次等です。

大正十一年七月　　成城中學校

父兄保證人殿

六月廿五日、中房温泉場、有明神社、松本停車場、信濃鐵道松本驛、金物旅館、有明驛、中房支店、飯田町驛等へ第一回の交渉をする。

七月一日、志望者及教師の身體檢査。

體量も計つて、後の參考にする。

七月二日、參加者の選拔成る。
七月四日、階行社へ携帶食料を注文する。
七月五日、松本小林區署へ高山植物採集許可願を出す。
小使一人同行の約成る。
氣象臺員一名同行を承諾す。
七月十日、中房其他へ旅程時日確定を詳報する。
七月十五日、費用を生徒全部より受取る。
自修館圖書を借受く。
英語教科書を用意する。
醫藥を整へる。
印刷器を借受る。
寫眞屋同行を申込む。
參加者の氏名住所を本校へ報告する。
七月十七日、本校第一學期の授業終る。
參加生徒を集めて出發の注意をする。
四五年生の參加者は研究學科を定める。
夜行列車が近頃雜沓する樣子だから、夜飯田町驛へ視察に出かける。
生徒教師の汽車割引券を用意する。
七月十九日、學校で荷造りをして、左の品々を入れる。
一、白墨、黑板消、自修館圖書若干冊、茶、茶道具、寒暖計、バスケットボール、網、紙類、騰寫板、展覽會用ピン、ラシャ紙、野外劇用衣類、天幕、携帶食料品、醫療藥品及器械。

七月廿日、荷物を小使に車で飯田町驛へ送らせる。

夜十時迄に生徒の荷物も驛に集る。

十一時出發。

九月十日、父兄へ次の報告書を送る。

(一)林間學校授業報告

一、七月廿日夜出發、廿一日夕刻中房着、林間學校に入る。

七月廿日より八月三日まで學科を教授す。

八月四日下山、長野一泊、七日歸京。

一、生徒、二年生二十九人、三年生十二人、五年生三名、卒業生一名、中途參加者五年生一名。

一、教師、英語——多田、鵜飼、　數學——江原、　美術——霜田、　氣象——山岡、　博物——赤沼、　國語——霜田、　音樂——多田。

體育、ポレーボール、游泳、溫泉浴、庭球等。

興味を中心とした指導、講演、物語、童話劇。

燕嶽へ登山二回、一部生徒槍嶽へ一泊登山。

一、林間學校が體育に及ぼす影響及學科進歩の狀態を休中東京に在住した生徒と比較して、引續き目下調査中。

一、尙詳細は生徒本人に就き御聞取りを願ひ度、尙夏休中生徒の生活指導は、年を追うて緊意を感ずるものが有り、林間學校の進歩改善を吾人は切望しますから、本年の經營について長所短所等細大御服藏ない御批評を仰ぎ度、左の回答欄に御氣付の點を御記入の上、本人に持たせて御回答を願ひます。　大正十一年九月　成城林間學校

父兄保證人殿

(回答欄略す)

(二)大正十一年林間學校會計報告

(畧す)

九月十二日、學校で林間學校に參加したものゝ茶話會をやる。

第四節　行程

林間學校行の荷物が皆學校に集つたので、小使をして出發前一時間迄に飯田町驛に車で運ばせた。そのうちに學生が旅裝甲斐々々しく停車場に集つて來る。別に日本アルプス行の成城山岳隊の連中も集合する。同行の先生方もやつて來て、切符の世話やら荷物の世話をする。見送りの父兄其他に送られて、夜十一時發車する。此頃の列車は登山の客で滿員以上だから、頗る雜沓する。だから或は出發は朝の汽車にした方が便利かも知れぬ。

中央線の汽車沿道には、車中から見學すべき場所が多いが、今は夜中だから、それは果さない。只夜の武藏野をひた走りに走つて、都を後に信洲の山地に向ふのだといふ氣持だけである。山梨縣にはいると、三十幾つかの隧道を出入する。日本一と稱せられる笹子トンネルや、小佛其他の可なり長い隧道を送迎するが、半分は乘客は睡眠中で、起きて居る者も只轟々の響きに其れと知るだけで、煤煙が窓の隙から車內へ侵入して不快だから、ハンケチを鼻口にあてゝ、熱い苦しい間にトンネルの終るを希ふのみである。郡內の山地で夜があけて、車窓を開けると、西の空高く富士の秀嶺が見えるので、先づ快哉を叫ぶ。

猿橋には有名な高い橋が有つて、名所の一つとなつて居る。一つの小さなトンネルを出ると右側に直ぐ其れが見えるわけだが、注意して居ぬと一寸見逃し

てしまふ。停車場の向ふに桂川水電の宏大な發電所が目に付く。

郡内の山地を出ると、甲州の盆地に入るわけで、富士川、笛吹川あたりの流域が手に取るやうに見え、右の方一川の河流イロージョンの立派な實例が直ぐ見える。甲府の手前、石和驛あたりは、一面の葡萄畑で、汽車の沿道左右から、遠く四面に見る限り其の栽園が續いて、全丘陵皆葡萄畑といふやうな盛んな栽培に驚かされる。甲府で停車する間に、プラットフォームに出て顏を洗ふ。そして多くの人は朝食をこゝで食ふ。停車場の直ぐ左には、舊城趾の石垣が目につき、往時武田信玄の雄圖を聯想し、吾々が今行かうとして居る信州の天地は、彼れが北越の傑士上杉謙信と雌雄を爭つた所だなど考へて、古へを偲ぶのである。なほ甲府の附近には酒折の宮といふ日本武尊の古蹟が有り、信州境には南朝の皇族宗良親王の遺跡がある。

汽車が北行するにつれて、右手に信州境の八ヶ岳の連峯が現はれ、其の裾野を汽車が走ることになる。西の方には駒ヶ岳、白根の峻峯が雲間に屹立するのが見えて、始めて眞實の高山の嵯峨たる姿を見ることが出來、愈々山岳に近づくといふ氣持になる。汽車の線路が常に上り坂で、列車の速度がおそい。上りつめると、もう諏訪で、富士見高原である。同名の停車場に停車して見ると、プラットホームに海拔三千百餘尺の文字あざやかな棒杭が出て居るのに先づ氣が付いて驚く。窓を開けば冷風が懷にひやりとして、高原の秋草に夏を忘れるのである。此の邊から右手を見渡せば、八ヶ岳の連峯が長い裾野を引いて、天を摩するものが目睫の間に見え、直ぐ其の北には立科の一峯がおだやかに立つて居る。

上諏訪の驛に着くのは八時頃で、次の下諏訪迄の間に、汽車の窓から直ぐ左

手に諏訪湖の鏡面がぱつと展開して、快哉を叫ばしめる。冬期の有名なスケートを偲んで、「富士の上漕ぐ海人の釣舟」を見て居ると、幾度か湖水が見えつ隠れつして下諏訪の明神の森が右手に見えて來る。此の邊で汽車の行手に遠く目を放てば、右に和田峠の連山、正面に鹽尻峠の低い峯が見える。汽車が漸く湖水から遠ざかつて左に折れる邊りに柴宮の森が見える。此れは甲州の一部と共に宗良親王の勤王の遺跡である。

既にして汽車は天龍川の河口岡谷に着く。日本製糸工場の土地だけに、煙突の林立と倉庫の櫛比に目を驚かされる。湖水が天龍川となる所は特色が有つて、地理學上の研究題目ださうである。

天龍川に沿うて汽車は南走して伊那の谷に入り、更に北折して稍長い烏洞（ウトウ）トンネルを抜ければ、中央西線の分岐點、鹽尻驛につく。汽車は更に古への桔梗原を走つて、松本に着く。一度松本で下車して、輕便鐵道に乘換へる。この輕便鐵を信濃鐵道といふ。此所からは少數の里人の外は皆大町白馬岳方面に向ふ登山客で列車は頗る雜沓する。汽車の乘換へに際しては、務めて荷物の積換へを監視する必要がある。もし打捨てゝ置くと、田舍驛夫のんきさと、驛員不足のお蔭で、荷物が必ず次の列車に廻される。そうすると中房迄此の日の中には屈かない。屈かぬ場合には中房からわざ〳〵下車驛迄特派して呉れる人足の日當をたゞ餘計に拂はねばならぬ事になる。

信濃鐵道の列車が松本の市外を走る頃、右手に松本深志城趾の天主閣が見える。そうして汽車は一時間餘にして、正午少し前には有明の驛につく。吾々はこゝで下車する。それから驛前の中房支店か金森旅館といふに休憩して晝食を取る。もし旅程を非常に急ぐ場合ならば、松本の驛で辨當を調へて、信濃鐵道

の列車の中で食事を終つておくと都合がよい。

有明の驛前に休憩したら、必ず清水で顏と頭を洗ひ、着物を脱いで全身を拭いておく事を忘れてはならぬ。昨夜からの熱い雜沓の汽車の中で、睡眠も不足で疲勞した者は、是非一度新清な氣分になつて、改めて峠路を上る必要が有るからである。

松本あたりから、もう西の方に日本アルプスの連山が見えて來るが、有明驛近くになると、常念の雄峯から大天井岳、有明山などが手に取るやうに吾人を迎へる。有明驛から梓川の橋を渡り、直路田舍道を約一里も西に進むと、中房川の畔に有明溫泉といふ郡には珍しい大厦の溫泉旅館に着く。もし飯田町を午前の汽車で出發したら、有明に夕刻七時頃着くから、金森旅館か、此の有明溫泉かで一泊するを便利とする。或は今少し進んで有明神社の社務所にご厄介になるのも一法である。

有明神社は有明山の麓の高原にある由緒ある古い宮である。此の地方の傳說は仲々豐富だから、立寄つて古土器石器と共に研究すると面白い。毎年神官澤柳氏の歡待で、社務所の庭園の飛瀑の下で麥湯を頂くことになつて居る。

有明神社から上は峠路で、常に右手に有明山の切立つたやうな雜木林を望んで行く。釣橋を經て、枋ノ木峠にかゝる。それから川を渡ると信濃坂で、其れを越せば愈々中房溫泉場の領域に達する。峠路約三里、寧ろ平易な山路だから、信州の人達は、老幼婦女も平氣で下駄ばきで踏破して居る。時刻は六時か七時になる。直ぐ溫泉に足を延ばして一日一夜の勞れを慰するのである。

今參考の爲めに、飯田町から中房迄の此の行程に連關して車中から見たり考へたりして置くべき名所古蹟と、學術上必要と思はれる地理上の要點を左に列

擧して置く。此等の智識は生徒の出發前に是非一通り授けて置くべきである。

一、飯田町驛――中央線。
一、八王子。
一、鐵道が東京府下、神奈川縣、山梨縣を通ること。
一、小佛、笹子等中央線のトンネル。
一、郡内地方の地勢、産物。
一、大月――富士登山路。
一、猿橋――桂川水電。
一、甲州盆地。
一、甲州葡萄。
一、河流水浸作用
一、猷澤――富士川――釜無川――笛吹山等
一、天目山
一、甲府――武田信玄。

一、酒折の宮――日本武の尊。
一、崇良親王。
一、八ヶ岳火山――富士見高原――立科山。
一、甲斐駒ヶ嶽――白根山――釜無山。
一、諏訪湖の生成――結氷の事實――天龍川。
一、諏訪の鐵平石。
一、上諏訪――下諏訪――諏訪明神――和田峠――鹽尻峠。
一、岡谷――製糸工業。
一、伊那の谷――松本平。
一、鹽尻――中央線――篠井線――松本市。
一、信濃鐵道――大町。
一、有明驛――有明山――有明神社――枌ノ木峠――信濃坂――信濃坂模範林――中房。

第五節　林間學校の設備

林間學校の設備と言つても、極めて簡單なもので、只中房溫泉場に一棟の校舍が有るだけで、其れを寄宿舍にして、授業をするのである。

數年前に成城中學校長澤柳博士が、林間學校の施設を思立つて、中房溫泉場主百瀨氏に交渉した。そして信州の官有林の木材を安く拂下げを受けられるやうに世話をしてやつた。其の拂下げの木材を利用して、新たに校舍を建築して提供して呉れた。此れが卽ち我が林間學校である。

校舍は東西五間、南北十間の長方形の平屋で、瀟洒たる寄宿風の建築である。位置は中房溫泉場へ入口の道の直ぐ左側に位し、石垣の上に直ぐ目に附く。入口の玄關は東面の中央で、之れが溫泉場の他の客舍に運動場と池とを隔てゝ對して居る。玄關の兩側は椽側で、西面の端もずつと南北に椽側がつゞいて居る。玄關から眞直に廊下が續いて行つて、校舍を二分して居る。室は學生の居間が十個有り、五個は東面し、五個は西面して居る。其の中南端道路の石垣に近い方の東西の二室を敎員室に用ひ、他の八室は皆學生の居室である。この居室は八疊或は六疊の部屋で、林間學校が開始されぬ時は溫泉場の上等客舍に使はれて居るわけだ。居室には長い机が一脚づゝ備附けて有り、こゝで勉强をする。押入れが一つ、床の間が一つゞゝ、附いて居て、日常生活に便益と趣味とを與へる。學生が到着して部屋割が出來ると、各部屋で荷物や備品を整理して、學生はそれ〴〵工夫をこらして、部屋の裝飾をする。夜具布團は無論溫泉宿のものであるが、學生は多く敷布を自ら携帶して來て、衞生の注意を怠らない。

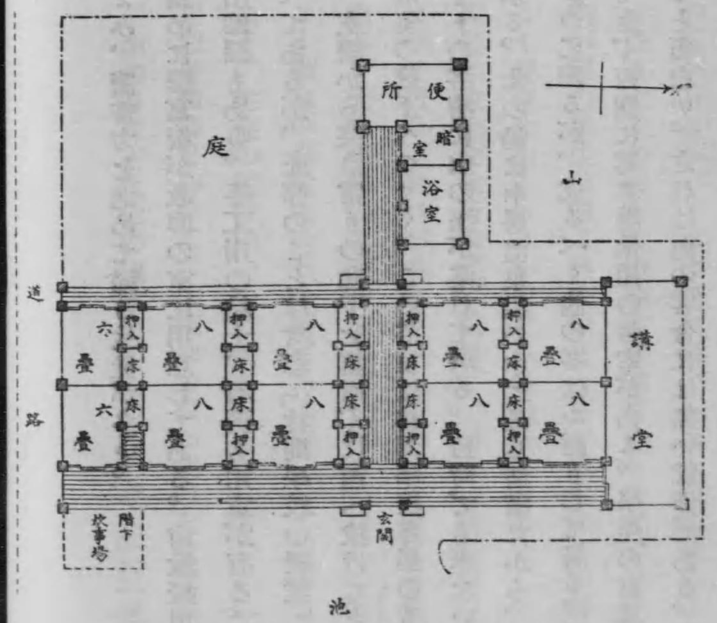
各部屋に電燈の設備が有るが、これは溫泉場の一場水力電氣發電所から自家用の電流を送られて居る。この發電所の裝置は獨特のもので、大きな水車が靜かに廻轉して居る所が都の學生に頗る興味をそゝり、學生はこの發電所を「電氣局」と稱へて、よく見學に出かけるおなじみの場所になる。

最北端の部屋は東西に拔いた大廣間で、板敷で、中央に机がずつと並び、腰掛が其の兩側につゞいて居る。此れが講堂で、その東側の壁には黑板が揭げて有り、教師の机が有る。此の廣間の北西の側は硝子障子で、其の外は直ぐ溫泉場の裏山の原につゞく面白い自然の岩石の所である。そして其の少し上の方は直ぐ游泳の場所である。生徒の居室の一つは讀書室とされる、そして其の中に東京から持つて來た參考圖書をおいて、生徒の委員が之れを監理して、生徒の讀書に便利を計る。雨の日などは此の讀書室が賑つて、滯在二三週間の間には仲々澤山の本をよみ、讀書力を進めて歸る生徒が多い。

教授に資する爲めに騰寫板が教師の室に用意してある。尙教授用として顯微鏡もある。登山用地圖もある。手工用の粘土、石膏も用意が有る。動植鑛物採集用の道具も備へてあるが、此等のことは次章「林間學校の授業」の所で詳述することにする。玄關から突き當りの廊下を眞直ぐに西へ拔けると、西側の椽側へ出て、更に浴室の廊下へつゞく。この浴室は林間學校專屬のもので、立派な廣いコンクリートの浴漕に山の湯が溢れて居る。何時でも來たい時は自由に此所に入浴が出來る。此の湯は中房溫泉場の中で最も清潔だから、他の一般浴客がこゝへ來たがつて困るが、成るべく他の客はお謝りして居る。

浴室につゞいて直ぐ西側に寫眞現像用の暗室がある。學生の寫眞家は自ら此所で現像して見ると面白い。之れは他の客舍には無い設備である。

林間學校校舍平面圖



暗室の直ぐ西には便所がある。暗室の前の廊下の一部に、大きな机が置いて有つて、ピンポンの設備がして有る。之れも雨天の時の室内運動の一つである。

浴室の南側には林間學校の庭がある。此れはあまり廣くは無いが、頗る日がよく當つて見晴しが良い。校舍西側の椽側から直ぐつゞいて居るのだから、此所から下駄をはいて出れば、何時でも氣持よい日光浴が出來る。庭は廣からずと雖も、砲丸投げ、キャッチボール位には間に合ふ。角力などは此所でやれば絶好である。此の庭の南端は道路に面する石垣で、一段高くなつて居るわけだから、其の一端に立つて、南方中房への入口の谷間を眺めると、雲が湧いて來て、高い峯を包む景色が面白い。直ぐ庭の先きに拇の木や落葉松の大木が見えて、高原を思はせる。林間學校の西向きの部屋からも此の景色が見はらせて、詩情が湧くのである。

校舍の東南端の教師の部屋の直ぐそばには、廊下から階段が下つて炊事室へ出る。炊事の一切は溫泉場本部で一所にやつて、此所へ運ぶのであるが、此所が取次ぎの場所となり、此所にはいつも湯が沸かしてある。山の清水が筧を通つて此の炊事場の一端にとん〳〵落ちて居る。炊事場には專屬の雇人が居て、食事一切の世話をして呉れるが、本校の小使を東京から伴れて行けば更に便利である。炊事場の出口は南面して、直ぐ往來につづいて居る。

校舍の東西兩面の椽側の外の雨戸は、毎夜鎖すことにはなつて居るが、風雨の時の外は其の必要も無く、夜開放しておいても、決して盜賊の入る心配がないから、仙境の感がする。

東向きの部屋と南の窓どからは、溫泉場を隔てゝ裏山の溫泉湧出の湯氣の立上るのが見えて、雨の日にはそれが雨霧と入り交る樣が面白い。更に彼方には燕岳の麓の深林と、中房川の上流谿谷から、右手には川を隔てて有明山の切り立つた雜木林が、呼べば答へむばかりに見える。もし秋の候に此所に居て見れば、眞紅の紅葉が山一面に燃える壯觀が見られるが、夏七八月の頃はまだ新綠とも言ふべき位な薄やかな綠である。

林間學校の玄關先きを一寸東に進めば池が有つて高い橋が有り、橋を渡ると溫泉場の運動場が有つて、テニスやボールでよく賑ふ。溫泉場中興の祖で、今の主人の祖母に當る百瀬夫人の銅像が運動場の一端の松林の中に立つて居る。

運動場の北は溫泉本部で、運動場の下には道路が東へ走る。それを行くと新築の客舍の東に溫泉事務所が有り、其の隣りが賣店になつて居る。此の賣店が此所で唯一の物資供給場で、畫はがきも有り、土產物も賣る。登山の準備品も此所で得られ、登山紀念のスタンプや、燒印も捺す。菓子も賣つて居るし、郵

便も此所へ出す。

郵便は日に一回、多くは午後、下の有明の村から、集配人が上つて來るから、此の時迄に此の事務所に出しておけばよい。郵便屋の來ることは都への手寄りを待ちわびる浴客には極めて懷しい事である。電報も亦こゝで取扱つて呉れる。然しながら山中の事だから、普通の郵便と何等變りが無い。もし嵐でも有れば、郵便屋の來ない事もある。如何に急ぎの用でも郵便屋の來るのを待つて托するより外に道が無い。强いて急ぐ時は特に使を立てるのである。然し電報は、半日の時間を經て有明の驛へ着きさへすれば、後は普通電報の速力で通ずることは無論である。爲替も同樣に取扱はれるが、拂渡指定局を有明局などとすれば、受取る手續が面倒で時日を徒らに遷延するから、成るべくは指定の無い小爲替が便利である。

林間學校の直ぐ上の廣場に獨特の溫泉游泳場が有つて、學生のおなじみの場所となる。其の直ぐ上に新設の立派なテニスコートが有り、此亦學生の歡迎を受けて居るが、此等の運動の狀況は別に節を改めて述べやうと思ふ。

溫泉場から一寸離れて下の方の中房河畔に茶屋が一軒有つて、名物のあんこ入餅を賣つて居る。菓子を除いては、此れが中房唯一の飲食物で、徒然を慰めるには絶好の材料である。此の外に何等如何はしい飲食店の無い事が、實は中房に學生を誤らせぬ長所である。

川邊の客舍の一部に理髮屋が店を開いて居る。就いて髮をからせれば極めて安價で氣持が良い。

溫泉場の浴槽は幾つも有つて、室内のもあり野天のもあること前述の通りだが、ことに裏山に近い野天の場（俗稱痲氣の湯）などは、原始的に趣味あるも

のである。此等は前節に述べたから今は省畧する。

林間學校には天幕を用意してあつて、學生の天幕生活に便にする。此れも節を別にして說明しやう。

第六節　林間學校の授業

普通に學校の授業と言へば、校舍の敎室の中で、横縱に井然と机を並べた所で、生徒は稍窮窟な所に姿勢を正して一糸亂れず先生の講義を傾聽することになつて居る。先生はまた定つて一壇高い敎壇の上にいかめしく構へ込んで、嚴然として所謂敎鞭を取ることになつて居る。そして生徒が話をしたから不可んとか、睡つたから惡いとか言つて先生のお小言を頂戴する。それが狹い敎場に多數の生徒が押込められて居て、夏にでもなれば、汗が出る氣がつまる。五時間も六時間も苦しい授業がつゞけられて、頭は既に飽和の狀態になるが常である。

ところが我が林間學校の山中の授業は、斯んな型にはまつたものとは全然趣を異にする。立派な新築の校舍は有つて、所謂敎室のやうな部屋も有るけれども、雨天を除く外の日には、室內などでは授業をしない。こゝの授業時間と言へば、多くは戶外で、松林の涼しい日蔭か、芝生の暖かい丘の上かである。時には澄み切つた溪流の河原でやる事も有るし、傳說に富んだお宮の石段で始まることも有る。それが日中と雖も日向で背中がぽか〳〵と心地よく暖かさを感ずる位な高原の涼しさの中だから、汗を拭き〳〵飽和したやうな頭を抱へて、强いて苦しい講義を聞く下界炎熱の敎場のやうな嫌やな氣持は夢にも無い。そして睡魔と戰ひつゝわからぬ講義をきくやうな努力もいらぬ。足を延ばした

ければ涼しい芝生に延ばせるだけ延ばすことが出來る。腰かけたければ、美しい自然の石も雅致ある大木の根も有る。自然の青草が絶好の座布團で、紺碧の涼しい大空が自然の天井ともなつて吳れる。先生が教壇の上から瞰み付ける恐ろしさも無いから、氣儘に適當な姿勢で、授業を受ければよい。

必要が有れば輕便な黑板を出して、適當な所に置いて使ふ。謄寫板を利用して、印刷物を用ゐることも有る。授業時間の始まりには、事ごゝしく鈴を鳴らす必要も無い。只誰かが「さあこれから某々の學科をどこそこの原で始める」と呼びさへすれば、直ぐ集合が出來る。面倒な振鈴の役の小使を置く必要も無ければ、生徒は窮窟な服裝の小言をきく事も無い。袴一つでも、浴衣のまゝでも一向かまはない。

電車の響きや車馬の雜音が無いから、溪流自然の音樂を聞きつゝ、極めて愉快に、のんびりと學問が出來る。教師は毎日生徒と寢食を共にし、共に浴し共に遊んで居るので、一家族の如き親みが有つて、教へるに威を用ひず、學ぶに遠慮が無いといふわけで有る。雨の日には講堂の廣間を教場とし、或は別な組は寄宿舍の疊の部屋へ札を並べて、教科書とノートが有りさへすれば、授業が直ぐ始まるのである。

元來劃一的な教場の授業で無いから、總て生徒の學習を教師が應援して、其の助けをすることにする。だから最近に稱へられるプロジェクト、メソッドの方法や、ダルトン案の生徒中心の教授法はこの林間學校の授業には持つて來いである。そして生徒は始めて趣味あるほんとうの學習の方法を覺えるのである。

さて林間學校では中學の主要學科と、自然を利用した趣味ある學術を研究させるのを目的とするのだから、こゝの學科を大別して正科と補助學科とに區別

する。

正科は時間割をきめて、毎日一所に學ぶもので、次の四つである。

一、英語、

二、數學、

三、自然科學（動物礦物、氣象）、

四、美術（圖畫、彫刻等）、

補助學科といふのは、生徒が適當な時に自ら研究する科目で、決して正科よりも重要で無いといふわけでは無い。次の三つである。然しこれは臨時教師が講義をすることも有る。

一、國語（讀解、作文、作詩等）、

二、音樂、

三、體育（運動、遊戲、溫泉浴、游泳等）、

毎日朝凉しい中に、二時間或は三時間、時間割を定めて、正科の學習に當てる。生徒の大部分が二年生と、三年生だから、學年別に二つの級を造る。四五年生は數も少いし、各自希望の學科の勉強の豫定で來て居るから、此等には自分で研究させて、時間を設けて質問をさせ指導を受けさせる。

正科の時間が終れば、其の日は生徒は全く自由であるから、各自の趣味に依り、或は讀書室にはいつて好きな學科を研究し、或は課題の研究をやる。或る者は運動し、或る者は入浴し、欲する所に從つて教師の指導も受けさせる。そして午後と夜との自由な時間の中に、補助の學科が學習されるのである。夜はことに靜寂で、外出の要もないから、勉強が出來る。特に音樂は夜が最も適當で、或る時には音樂會やら、其他の講演が行はれる。

今順を追うて各學科の實際の大樣を次に記して見やう。

（一）英語、

英語は中學校の主要學科だから、林間學校でも是非此れをやる。教科書は普通の Summer Reader を使ふ時も有るが、多くは成城中學で特に編纂した物を用ひる。其の讀本に取つた材料は、趣味ある物を多くし、夏期の期節に適する材料を取つて、實生活に成るたけ結付ける。下級生のことだから、高尚なる記事は到底取扱はれないが、相當に語學の上からも注意して、此年齢が機械的暗記に長ずる點を利用して、勉めて單語を殖やすことに留意する。趣味のものとしては、歌謠などが適當で、例へばタゴールの兒童を歌つたもの、キングスレーや、デラメーアの童謠などである。山嶽に關係深い材料が多く出て來ることは最も有効である。東京から中房への往復の詳しい記事、林間學校の生徒の生活の一般を特に英文で綴つた物など極めて興味が有る。

英語の授業は多く一卷の教科書とノートで足りるから、今日は松林、明日は河原といふやうに、適當な所へ行つて、教師を中心に生徒が其の周圍をかこんで、時には發音練習の元氣よい聲が瀧の音と競ふ事なども有る。

此所に滯在二三週間の間に、驚くべき進歩が見られる。下級の生徒では、まだ辭書の使用法を充分に會得して居ない者などが、放課後豫習復習の時に、友人と助け合つて、勉強した結果、すつかり修得が出來て、非常な力になるものが多い。兎に角、滯在中に一卷の教科書を讀み終つたといふ事は、生徒には頗る愉快の事であるから、從つて向學心が進む。夏休みを只遊び暮してしまつた者よりは、第二學期に於て學習に進境を見せるは、當然のことである。上級生の如きは、個人的の指導を受けて入學試驗の準備などに長足の進歩と基礎がつ

くのである。

滯在中暇が有つたら、英語會をやつて見ると面白い。此の種の會合は、生徒の非常に喜ぶもので、一は無聊を慰め、一は生徒のプライドを利用する有益の企てゞある。暗誦の如きも、こんな生活の時が第一で、極めて容易く仕事が出來て、後まで助けになるのである。

(二) 數學

數學は推理の學問で、此れ亦中學の主要學科である。而も學生の最も難物視するもので、成績の惡い生徒などは、同じ學級の中でも他生に附いて進むことが頗る困難の教科である。そしてやゝもすれば、不成績なるが爲めに益々趣味を失ひ、遂に反感迄も抱き、どうしても其の勉強を放棄して困るのである。こゝに不成績の學生は、夏休中に第一學期の恢復の必要を痛感して居ながら、あの熱い都會の家に在つては、如何に志操堅實でも、到底確りした勉強が出來るもので無い。特別に個人的に師について學ぶとしても、汗だく〳〵の中では、先生も生徒もやる氣にならぬ。だから第一學期の不成績を夏休中に恢復に着手しても多くの場合豫期の十分一の結果もえられなくて終る。

都會の家庭では、其の子弟の爲めに、夏休を海濱で過ごさせるやうに計畫する事が習慣的に良くある。此れは病身の學生ならば、健康恢復の上から見て適當な所置でも有らうが、勉強させやうといふ計畫ならば、失敗である。前述の如く海濱の氣壓は鈍重で、根本的に勉強の氣分にならぬ。著者は嘗て或る家庭の兄弟二人の學生を托されて、一夏を大磯の海岸に過した事が有る。兄は中學卒業生だから、高等學校の入學試驗準備をやり、弟は中學四年生だから學科の補習をやつて見たが、どうしても遊ぶ事が多くて、眞劍な勉強の氣分にならぬ。

朝から晩迄ぶら〳〵遊んでばかり居る。一日に一時間か二時間の眞の勉强の時間を得ることが、既に困難で、其の尊い少時間の中と雖も、頭腦がどうしても呀えぬ。教師自身も其他に著述の仕事の一部をやつて見たが、どうも想が纏らぬ。强てやつても能率が上らない。それで豫期だけの効果を收めなくて終つてしまつたのであつた。

所が山の氣分は全然違ふ。鈍重どころか、空氣は一日中新淸といふより外に言葉が無い。ことに朝の中は、氣分が頗る引き締つて、頭腦が淸々とする。此れは言ふ迄も無く、高層氣壓の關係と、塵芥に遠かる深林の樹木が作用する新鮮な酸素と美しい有力な光線などの爲めであらう。ことに雜沓の巷と違つて、太古の如き靜寂が物を考へるには最も便利な氣分にする。そこで推理的學問の數學には最も適することになる。

數學は二三年の生徒だから、幾何か代數をやる。そして普通の說明と普通の問題を解かせるばかりで無くて、主として趣味の形でやらせる。同じ問題にしても興味ある形にして提供する。普通教場でやるやうな劃一な取扱ひ避けはて、成るべく個人的に學習を助けてやる。だから教授と言はむよりは寧ろ自ら學修指導と言ふべきである。

作圖や其他の問題で平素教室で練習が充分ゆかぬやうな基礎の智識の練習が行はれる。圖形を取扱ふ時には時には、遊戯的にラビリンスなどを持出して興味をそゝる。グラフの取扱ひの如きは、最も興味あるものだから、林間學校の數學には持つて來いである。そして多く其れを生活の實際問題に結付けて取扱ふ。

今英語で書かれた幾何の書物が有るとする。そして其の中の或る圖形が少し

調べて見ると大體意味がわかりさうな物が有るとする。こんな場合に之れを生徒の間に提供して、其の說明の英文を讀ませ、圖形の方から英文の理解を助けしめ、遂に全體を解しえて、立派に答案が出來るやうに指導する如きは、英語と連關して相關的に有効な試みで、此所のやうな生活の學生には最も適した事である。更に之れに懸賞でも附せば愈興味が湧く。

こんな所で數學の一部に興味が出ると、今迄放棄して居たり反感を抱いて居た數學といふ自分に不得手な學科が俄に好きになる。これが最偉大なる効果で極言すれば、强いでむづかしい問題が解けるやうにならなくとも、一端の興味さへ湧かしめれば、こゝの數學教授の目的は達せられるのである。

(三)　自然科學

日本アルプスといふ大自然の間に生活して、毎日其の壯美の感に打たれつゝ、見るもの聞くもの皆自然の姿であるから、林間學校で自然科學を研究することは、最も適切な最も意義あることである。東京の學校に居てする自然科學の研究は、自然とは隔だつて居る都會の眞中でするのだから、非常な用意と非常な努力がなければ、やゝもすれば貧弱な觀察と、乾からびた標本の參考位に終ることが多いが、此所中房の高原では、有り餘る自然の材料で、而も二三週間一つ所に滯在するのだから、生物ならば生態の觀察が行き屆き、無生物ならば長きに渡る細密な研究が出來るわけで、氣象の觀測の如き、到底平野では得られぬ高山の變化ある實際の狀況が觀測されて、而も長時日連續して研究結論することが出來る。

自然科學と言つても、其の內に色々の分科が有るが、今林間學校で主として取扱ふものは、

一、植物、
二、礦物及び地質、
三、動物、
四、氣象、

である。氣象觀測の事は別に章を改めて述べることにして、他の三科の研究題目を次に列記して置かう。

(一) 植物

一、植物の生態、分布、營養。
一、植物の構造。
一、中房を中心として、六七月の頃開花する植物の分類。
一、燕嶽を中心とする高山植物の一般。
一、食虫植物。
一、光蘚。
一、有毒植物の研究。
一、食用植物の研究。
一、濶葉樹帶及針葉樹帶の木本。

(二) 礦物

一、日本アルプス山岳の形成。
一、中房附近の地質。
一、溫泉場高原の生成。
一、燕岳の研究。
一、雪渓、谿流氷河の研究。
一、中房溫泉の研究。

一、右に連關して、硫黄バクテリア及其他溫泉中に生息する生物の研究。
一、中部產出礦物の研究。

(三) 動物

一、附近昆虫の研究。
一、高山蝶。
一、日本アルプスに棲息する動物。
一、溪流に住む魚類。
一、山地鳥類。
一、豚の解剖。

生徒の行ふ行事としては、

一、標本の採集。
一、顯微鏡的研究。
一、標本の製作。
一、植物の栽培。
一、高山園の計畫、

(四) 美術

山の湯に滯留する者で、美しい自然に靈感をえて、讃嘆の念が動かないものが誰か有らうぞ。美しい雲の湧く時、紺碧の澄み渡つた空が峻峯の間に晴れる時、さては高山植物の可憐な美花を見る時、山の湯に素朴の田舍人の浴する原始的な光景をまのあたり毎日見れば、何人と雖も畫心がわき、キヤメラを弄びたくなるのである。美にあこがれる氣分は毎日旺溢するから、美術教育の材料は實に豐富なものである。

天氣の良い日には先生に伴はれて、戸外に寫生に出かける。或はクレオンに、

或は水彩畫に、進んだものは油繪で四邊の好きな風景を畫紙に寫す。此所では一つの石、一本の木を捕へても、皆雅致あるものばかりで、絶好の寫生の材料だから寫生には飽く事を知らない。ことに高山で强烈な光線が來るから色彩が面白い。進んで人物の寫生をやりたい者は浴客の各種が長閑な暇を持つて居て、いくらでもモデルになる事を喜んでくれる。岩角の面白い背景に人物を配することは他所に得難き場面である。

圖案には山の樹木と、高山植物が絶好である。連峰の雄姿と雪溪の壯美を一度見たものは、此れが亦好個の材料になる。

林間學校の樣側からでも、部屋の窓の中からでも、庭の端でも、道ばたでも、畫を作る場所は豐富である。雨天の日は、また高山の雨の特殊の趣が有るから、部屋の中からでも、畫心が湧く。

寄宿舍の各室の裝飾から整理をすることが、美術教育の一端となる。各種の會合が時々講堂で行はれるから、其の折りの裝飾、ポスターの製作も有益である。そして澤山出來た作品は集めて一度圖畫展覽會を開く。展覽會の事は章を改めて述ることにする。

寫眞も亦絶好の美術教育である。寫眞機を持つて來た者の爲めには、現像用の暗室の設備が有る。燕嶽或は槍ヶ嶽に登山した者は、寫眞を撮影して見て、高山寫眞のむづかしい事を經驗するであらう。そして少なくも滯在の間に光線からポーズの研究が出來て、山嶽寫眞にも亦成功するだけの技倆が出來るであらう。

成城中學校元の職員大森氏は趣味の人で、今年は林間學校で石膏の彫刻を教へやうと言つて居る。之れは趣味ある手工で、信州の附近で粘土が得られたら

ば、それを中房に送つておいて、先づ粘土の細工を授け、更に其れを石膏にうつして、立派な彫刻とすることが出來る。二週間の生活の暇に生徒が各々自作の彫刻が出來て、東京に歸る時には思出の記念土産が出來るわけで、面白い試みである。

（五）補助學科

以上は時間割を定めてやる授業の事を述べたが、今度は生徒の自由の時間に自ら趣味を持つて研究する學科を述べやう。そして今假に補助學科と稱へるが、正科が重要なもので補助學科が比較的主要でないといふわけでは決して無い。只隨時自修するのだから、今假に別けて見たゞけである。

一、國語

國語は讀書力を養ひ趣味を養成するもので、總ての學科修得の基礎になるから暇の時間を利用して出來るだけ讀むことを奬勵する。實際夜や雨天の時には隨分暇が有るから、熱心にやれば可なり多くが讀めゝ。東京から用意して來た參考書が、林間學校の一室讀書室に備へて有るから、誰でも自由に好きな物が讀めゝ。仲には自分で讀みたい本を澤山携へて來て居て、其れを讀む者もあゝ。登山などやつて壯大な感に打たれて居る時には、ことに偉人の傳などが感銘が深い。山嶽に親しんで居るから、山嶽の書籍も歡迎される。科學に熱心な生徒は科學の本をよむ。ことに高山植物の本の如き、最も緊要なもので、引つぱりだこで讀まれる。

純文藝の作品も好んで讀まれる。讀書室には、大家の作の全集や、學生向きのものが備へてある。中には詩を愛する學生もあり、短歌を好む者もある。此等がいつしか二週間の間に趣味を養ふことゝなる。

時々講演會をやつて、興味ある文藝の題目を講ずる。たとへば民謠とか、童謠とかの如きで、說明もし歌ひもする。そして學生が之れに親しんだ頃を計つて、適當に指導すれば、立派な作品も出來る。短歌、俳句の作法など授けて見れば、仲々面白い作品が得られるのである。

中房の傳說を加味した童話劇を學生が一度演ずることになつて居る。其の練習の如きも、趣味と共に、國語力を養成する大なる補助となる。

生徒には每日日記をつけさせる。生活が普通の學校のやうな單調のものでなくて、每日の變化が極めて趣味があるから、日記が仲々充實する。時々は作文も課題を出して作らせる。そして學生の實生活が豐富になれば、作文にも現はれるものである。實生活に觸れぬ机上の空論で徒らに作り出した作文とは自ら違つて、眞純な充實した思想が如實に發表されるから愉快である。先づ東京から中房に來る途中に見聞した事から、日新らしい田舍道を通つて、峠路に汗をながして高原の溫泉場に着いた感想を二三日たつて書かせて見ると、內容の豐富なる、發表の要を得たるに驚かされるであらう。其後林間學校で催す會合や、生徒の興味をそゝつた出來事や、登山の印象などを作文の課題にすると、驚くにたへた立派な作品が得られるのである。

生徒の日記は眞純なるもので、內容豐富で、後日の絕好の記念となる。之れは別章に或る生徒のものを採錄してあるから、就いて一例を見られるがよい。

（二）音樂

靜寂の別天地に居て、人の心が落付く時には、音樂ほど人心を動かす物は無い。だから放課後の暇の時とか、雨の日で無聊に苦む時や、夜靜かな時などには林間學校の部屋には、どこにか必ず音樂が聞えて來る。生徒はちやんとハモ

ニカや笛を携へて居る。そして登山の時に、一萬尺の峯峯の絶巓に憩うた時など、きまつて誰かポケットからハモニカなどを出して吹くものである。音樂は青年の美にあこがれる情調に根ざし深い根據を持つたもので、こんな純な生活をする林間學校の訓育情操教育には無くてならぬものである。

講堂にはオルガンが備へてある。そして暇な時を見てこゝで聲樂の教授が始まる。熱心なものは、オルガンの彈き方も練習して居る。音樂の練習がだん〳〵積むと、或晩を期して音樂會が催される。これは一般生徒の非常な樂みで、他所のお客さんも招待する。丁度此の頃は登山の時期で、溫泉場には數百のお客さんが宿泊して、皆何れも旅情に苦んで居るから、此の招待には喜んで來てくれる。其の音樂會の樣子は、別章に改めて說明することにする。

中房で習つた音樂はことに印象が深いと見えて、東京の學校へ歸つて、第二學期になつてからも、時々繰返して唱はれる。そして唱ふ毎に山の氣分になると見えて、追懷の物語が始まる。第二學期の始めに、林間學校參加者の茶話會が開催されるが、開會に當つては先づ林間學校で習つた歌の合唱がある。此の歌でもう學生はすつかり山の氣分になつてしまふ位に、山の歌の印象は強いのである。

(三) 體育

中房では一日の生活が、或る意味から言へば、總て體育だと言つても過言では有るまい。而も嫌いな者が強いられるでもなく、運動に耽つて始末におへぬ弊害も有り得ない。自然の形で趣味あることになる。こゝで實施する運動の細は、章を改めて體育の條下で述べることにしやう。

第七節　氣象の觀測

林間學校に於てその學習の教科に『氣象觀測』を置き而かも之を重視するには二つの意義を有してゐる。

(一)　自然に起る氣象狀態を觀察せしめ、尙觀測器械によりて測定せしめ、これを記錄し統計して、その據つて來る氣象變化の原由を生徒自らをして考察せしむる時、そこに廣汎なる綜合自然科學の教育價値が存するのである。

卽ち自然の因果律に據つて起る氣象の變化は理化學によつて考究せしめ、地勢山容に依つて變幻極りなく、時々刻々に推移する天象は一は地文學に、一は藝術教育に連絡をとり、その記錄統計は數學に利用し、簡易なる測候器械を製作し、又これを設備せしむる事は、手工と關係する。

(二)　教育に應用すること。

第二の使命はその觀測及び統計によつてその地の氣候を知り、直ちに之を教育に對する環境としての因子として、日々の學習、養護に、或は校舍內外の設備に應用する。それで我が校では林間學校開設以來氣象觀測を重視した。

もとより山深き處まで觀測器械の大きなものを運ぶことが出來ぬので。

(1) 氣壓　アネロイド晴雨計（大型のもの一個懷中時計型のもの一個これは山岳登攀用とした）

(2) 氣溫　戶外の林間の木蔭と室內とに一本づゝ、及び最高並びに最低寒暖計、

(3) 濕度　乾濕球寒暖計（十一月下旬には水泳話して用をなさなかつたとの報告が旅舍の觀測者より受取つた）　毛髮濕度計

(4) 風　はじめは輕き細長き布片を竿の頭に緊りつけて風向を見たが、後には工匠に命じて風見を作つて、庭前に高く設置した。風力は雲行の速さ樹葉、枝の搖れ具合で大體を觀取したに止る。

(5) 雲の種類　雲量、晴曇等の觀測

(6) 尙練習として時々寒暖計を用ひて水の沸騰點を測定せしめ土地の高度と氣

歴との關係を考察せしめた。

ことに大正十一年には、溫泉主人及百瀨支配人の厚意と努力とによつて、觀測器械も餘程整頓し、百葉箱も設け、尙七月末より十一月末迄の觀測を繼續し、吾等の林間教育に好資料を供給して貰ふ事が出來たのは、感謝に堪へぬ次第である。（從つて八月上旬以後の分は百瀨氏の觀測による）

觀測の結果

1. 氣壓　唯簡單に溫度更正を施したものを記入すれば

七　月（下旬）	六三七・三粍	十　月	六四二・三
八　月	六三六・一	十一月	六四三・七
九　月	六三八・七		

溫度更正は一乃至三粍の間ですする。（十一年東京の氣壓は六七月は七五七粍位、それより順に高くなつて十十一月は七六二、七―六六粍になつた）

平地に於ける普通の氣壓は、水銀柱七六〇粍に相當する。これを一平方寸の上に換算して見ると、ざつと二貫五百匁位の割合になる。七六〇粍の平地が今二貫五百三十四匁の壓力とすれば、中房ではその受ける氣壓は著しく減じて、二貫百二十七匁位となる。登山を急にすれば、上つたとき又は下山したとき、衂血を出したり頭が重くなつたりするのは、そこの調節がとれぬからである。

氣壓の垂直配布　高い處へ登れば上から空氣の壓す力が減ずる譯であるから、氣壓は順に減ずる山に登るやうに地に沿うて登るのと、航空機により氣界中へ昇るのとでは、多少の差はあるし、溫度の高低にも關係するが、大體三十九尺乃至四十尺位上れば、一粍減ると見て大差はない。（普通一二米につき一粍の減）

今中房の地の高度が海拔一四六二米であるから、氣壓は海面上よりも百二十

二粍位低くなるわけである。それで海面上七六〇粍の時とすれば、中房は六三八粍位になる筈で、丁度寫測の結果と一致する。

これ等のことを利用して、生徒に氣壓と土地の高さとの關係を實地に敎へ、且氣壓を與へて、その土地の高さを求めしめる計算を課するなども興味あることである。

【例】海面の氣壓七五六粍であることを知つたとき、長野の氣壓を觀測したところ七二一粍であつた。長野は海拔何尺であるか。

（解）兩地の氣壓の差三十五粍、一粍の差について高さが四十尺づゝ違ふとすれば、長野は凡そ千四百尺の高さにある。

生徒はこゝに學習中に、燕岳へは勿論、大天井、鎗、さては常念等へ登山をするから、そんな時には山嶽用アネロイド氣壓計を携へて、その山頂の氣壓を測り（もし出來たらば溫度更正もし）、そして大體のその場所の高さを測り、地圖に照らし合はせるなどは、誠に面白い中に知らず〳〵學習する生きた學問である。

ことに陸地測量部の地圖を所持してをる時は、順に昇るにつれて氣壓の減ずる事實によつて、その上りの高さを知り、これを地圖の等高線と比較すれば、一層をもしろい。

又氣壓と水の沸騰點との關係も、興味ある問題である。中房で大正十一年八月十日に測つたときには、九十五度であつた。

水の沸騰するのはその水中に生じた水蒸氣の張力（蒸氣壓）が、外氣の壓力卽ちその時の氣壓に相當するときに起る現象であるから、氣壓の低い處では水は攝氏百度以下で沸騰する譯である。今水の蒸氣壓表によつて、九十五度に相當

する壓力を索めれば、六三四粍位になつて、矢張り中房の氣壓計による氣壓の強さと大凡は一致する。富士山頂(海拔四九〇粍内外)などへ行くと、水が八十七八度で沸騰し、早く煮立つのと、水を十分加へぬなどの關係から、飯が半煮になり、心(しん)のある奴が出來るなどの事もよく知らせる事が出來る。又十一年十月一日燕小屋での水の沸騰點は九十二度であつた。これに應ずるその地の高さは五六七粍位で、矢張大體の氣壓と一致してゐる。

參考 氣壓の差によつて土地の高さを知る簡單な公式

$$H = 18400(\log b - \log b')$$

Hは高さの差、b b′は兩地の氣壓計の讀み。

2. 氣溫

氣溫は午前十時の一回觀測である。(攝氏)

	平均氣溫	平均最高氣溫	平均最低氣溫	溫差
七月(旬下)	二二、五	二五、九	一八、一	七、八
八月	二三、六	二七、六	一六、〇	一一、六
九月	一九、七	二二、九	一二、一	一〇、八
十月	一二、七	一四、〇	四、三	九、七
十一月	五、九	八、五	一、五	七、〇

この時季に於ては、東京は晝夜の氣溫の差がもつと少い。しかし中房は長野や松本などに比べれば、この最高最低の差が少い。一般に最高は午後二時——三時に起る(山嶽地ではもつと前に表はれる)し、最低は拂曉頃起るのであるから、この差は卽晝夜の溫度の差と見てよろしい。

山嶽氣候は大體に於て海洋氣候に類するといふのは、色々の原因もあらうが、

夏日午後の日射が割合に早く弱まつて、且山頂から吹きおろす風などの爲に寒暖計の示す溫度は割合に高く昇るがそれほど暑しにくゝない。又夏の明け方なども、東京、長野などで急に肌寒く覺えて、寒冒に罹り易いのに對し、一年中蚊張を用ひぬこの地に於て拂曉の冷氣も極めて爽快の感を與へ、決して寒冒などに罹ることはない。

今この大正十一年夏期に於て東京、長野、松本、中房の氣溫各十時觀測を比較すれば、

	七月氣溫			八月氣溫			九月氣溫			十月氣溫			十一月氣溫		
	十時	最高	最低	十時	最高	最低	十時	最高	最低	十時	最高	最低	十時	最高	最低
東京	二六、九	二八、〇	二〇、八	二〇、〇	二九、六	二三、一	二五、四	二五、九	二八、七	二八、七	二〇、四	二三、三	二三、六	二五、六	六、一
長野	二五、九	二九、一	二八、九	二七、六	〇、〇	二九、八	二三、八	二五、五	二五、七	二六、二	二九、一	八、五	九、〇	二六、八	二、二
松本	二五、一	二七、八	八、四	二六、三	二八、四	二八、三	二三、九	二四、一	二四、六	二四、二	二八、二	七、三	八、〇	二三、二	一、一
中房	二二、五	二五、九	二八、一	二二、六	二七、六	二六、〇	二九、七	二三、九	二二、二	二三、七	二四、〇	四、三	五、九	八、六	一、六

それで十月十一日には降雪あり、この月下旬には旅館のものは全部片付けて下山した。

3. 濕度

十一月の下旬には濕球を濕す水壺の水の凍結して用をなさず。やむなく毛髮濕度計を以て觀測した。

こゝの觀測器械は、毛髮濕度計の方がいつも二―三度位低い濕度を表はしてをるのが、普通であるが、雨の日には、却つて三―四度、ときには七―八度も高い濕度を表はした。今觀測の濕度の平均をとれば、

	七月(下旬)	八月	九月	十月	十一月
中房	七六	七〇	七二	七一	七八
十一年東京(平均)	八二	八〇	七九	七七	七四

長野、松本などゝ大體濕度は同じやうである。（多少雨地よりも高い）溫泉地であり且つは山地谷間の特徴として濕度は少い方ではない。しかし午後は可成り少くなり心地よくなる。

4. 雨

夏の間は降雨日數は少いやうである。八月には二日。しかし九月には微雨までも加へて十四日といふ數をあらはした。十月は九日（内一日は雪）、十一月は八日（内五日は雪）。

雷雨などは極めて少い。しかし登山の時に雷雨に襲はれる事もある。山上の雷雨は極めて物凄いものである。

5. 風

風の強さは一般に弱く、その階級は靜穩、軟風、和風の程度である。觀測して愉快なことは、午前十時、いつも定まつて南東の風、もしくは稀に南東南の風である。これ卽ち山谷風と見てよいと思ふ。中房の地は中房川によつて東南の方に谷が開けて、西北は山を負ひ（夜星の觀測に北極星山の端に隱れる位）、從つて南東から吹き上げた風は上の方に吹き昇り、この溫泉地は風が極めて穩かになるのであらう。從つて午後から夕方へかけて、餓鬼嶽の方から北西の風が吹いて來るわけであるが、極めて微弱のものである。

第八節　體育

黃塵の巷をはなれて、高原淸凉の空氣に浴して居れば、それだけで旣に健康の增進には充分であるが、この中房には其れ以上の幾多の設備が有つて、皆其れが滯在する學生の體育に影響するのである。其の施設を擧げて見ると、大約

左の五つに別れる。

一、溫泉浴、
二、日光浴、
三、遊戯運動、
四、游泳、
五、登山、

溫泉が身體に及ぼす効果は天下周知のことで、今更喋々を要しないが、溫泉含有物の及ぼす醫療的効果とか、溫浴が人體血行に及ぼす効能とか言ふものと別に、世人が實際ありますと氣附かぬ湯治の効果が有る。其れは卽ち閑靜な所に雜務を逃れて、靜かに落付いた氣分で精神の安靜休養を得られるといふ効能である。だから所謂「湯治」の効果を大ならしめるには、一切の心勞を片附けて、暫く靜かに俗事をはなれて、眞に閑日月を過すことに在る。切角靜養の地位に在つても、心勞が依然として續いて居ては駄目である。所がそこは少年は大人にまさる點で、たとへ第一學期の試驗が不良でやがて奮鬪を餘儀なくされて居る立場で有つても、一旦高原雄大の自然に包まれてしまへば、一切を忘れて、安靜な心地よい生活に終始することが出來る。だから若し學生の中に過勞の結果神經衰弱的な徵候でも有る者が有つたなら、是非山間の湯治を試みしめるが良い。更に此の靜寂な氣持に加ふるに、高山氣壓の特性が頭腦の働きに好影響を與へる。そして此の氣壓の關係は神經衰弱病ばかりでなく、近時は呼吸器病にも偉大なる効果が有ることを稱へられて、在來の海濱療法に代るに、所謂「高山療法」が高潮される。兎に角、靜寂な氣持ちは特有な氣壓と相待つて、頭腦の整正を促すものである。

以上は言はゞ溫泉場の精神的効果であるが、更に溫泉の人體に及ぼす効果を顯著ならしめる方法が、近頃海外、特に米國に稱へられて居る。卽ち彼等の研究によれば、溫泉に靜止して浴して居るよりも、溫泉の內で運動を盛にすることが最も有効だといふ。それには溫泉を宏大なる場處にたゝへて、其の中で游泳をするが一等だといふ。米國の有名な溫泉場には、近時多くは宏大な游泳場が設備して有る。

我が國では溫泉の游泳といふ事はまだ餘り普及して居ない。所謂「千人風呂」といふやうな大なる浴場は設けたる所が有るが、游泳を主としたものは多くない。然るに我が中房の主人は此所に着眼した。それは一つには、學生が運動を欲するのを見て取り、一つには有り餘る豐富な溫泉が宏大な游泳場に溜めるに充分であるからでも有つた。此の第二の原因は他所の少量な溫泉では到底不可能な事で、此の中房に特有の一長所である。

林間學校の直ぐ上の廣場に、間口五間、奥行十間の游泳場が出來た。四周は石垣をつんで、漆喰を以て塗りかためてある。此の石垣が一寸觸ると負傷を導きやすいので、更に其の內面に板を張ることにした。湯の深さは一部が淺くて三四尺、其他が深くて五尺弱で、學生の游泳練習には充分である。そしてその內の溫泉には水を交へて、溫度が極低いから、運動をしても熱くて困るやうな事は更に無い。普通の水ならば、稍溫度の高い海水と雖も、久しく中に居れば寒くなるのだが、此の溫泉ならば、數時間居ても、更に寒さを感じない。

學生は日に一度か二度は、必ずこゝで游泳をやる。初め更に泳ぎの法を知らなくて、少しも身體が浮かばぬ者でも、一週間もやれば直ぐ浮くことが出來る。

更に後の一週間は游泳の練習にあてることが出來る。一體この五千尺の山間に來て、海濱に似たる游泳が出來やうとは、意外な幸福で、前年迄こゝで無聊に苦んだ學生が、此の游泳を始めてからは、一切飽きることを知らなくなり、何よりの快樂で有つた。だから海濱に行つて游泳を志す者でも、こんどは中房に來て、同じ目的を果すことが出來て、一擧海と山との目的を遂げるわけである。

游泳場の中では、色んな遊戯が行はれる。水中ベースボールは其の一つで、ゴム球を用ゐて、小野球が初まる。ランナーは總て泳ぐことゝする。だから仲々生還することが、困難で面白い。或る時には水中鬼ごつこが初まる。追ひつめられて逃げ場を失ふと、遂に水のあびせくらが始まる。更に鬼と格闘が始まる。こんな事で水に、否溫泉に、すつかり馴れてしまつて、游泳は長足の進歩をするのである。

雨の降る時などは、この游泳場に居ると、特に面白い。湯につかつた身體は溫かく、頭だけ程よく雨の冷氣を受けて、最も爽快である。別に「野天の湯」で傘をさして入浴する野趣も得られるが、此所の游泳中の雨も氣持ちよいものゝ一つになつて居る。

游泳場は一週間もたつと、中に一種の藻類がはびこるので、改潔する必要が起る。其の時には學生が大衆して仕事をする。そうして新たに透明の新しい湯を引いて來て、山の水と共に流し落す。これが面白い仕事の一つで、一二日の後には復完全な游泳が出來るやうになる。只さへ山の清い空氣で食慾が進むのに、游泳を加へて、腹がへつて困る位、從つて體育に及ぼす効果の著しい事が有り〳〵とわかる。

日光浴は平地でも體育に有効であるが、高原の紫光線强い中房では功果は一

層著しいわけで有る。晴れた日の湯上りにぽか〳〵と暖い春先のやうな氣候の時、日光に照らされることはこの溫泉場の天惠の一つである。只あまり紫外線に浴し過ぎると日射病にかゝる恐れが有るから、注意を要する。ことに帽子を手ばなすことは戸外では危險とされて居る。

一般の遊戯の爲めには別に運動場がある。林間學校專屬の庭も有る。それ等で學生はバスケットボールや、ヴオレーボールをやる。オリンピックの競技も出來る。角力も始まる。雨の日には擊劍も講堂で出來る。ピンポンの設備も有る。庭に出れば機械體操もある。嘗て東京麻布第三高等女學校の學生が、この中房に滯在して吾々のやうな生活をして居た時に、林間學校の生徒とキャッブヲンボールの競技が始まつた事が有る。中學生は女生徒と見て侮つたか、將又遠慮したのか、勝負が中學生の負けに歸したなどは、二週間の生活中隨一の滑稽で有つた。

游泳場の直ぐ上の廣場に立派なテニスコートが出來た。こゝで庭球の好きな者は理想的な練習が出來るわけである。一般の浴客も亦こゝでは適當な運動が出來、湯治の効果を大ならしめるのである。公開された庭球大會などが賑ふ事であらう。

以上は毎日の體育の一般であるが、更に林間學校に特長の催しは登山の試みである。これは中房に來て數日、山になれ登山の氣が湧く時を待つて、大擧燕岳に登る。或は再度上ることもある。更に上級生は用意を整へて、二日の豫定で槍ヶ岳に登攀する。燕の峯の小屋にも天幕の備へが有るから、九千尺の上で天幕生活を樂むことも出來る。そうして此等は何れも壯健なる學生の體力を練り、忍耐剛健の氣を養ふ絶好の機械であるが、登山と天幕生活のことは章を

改めて照會することにする。（第十三節及第六章參照）

中學校の體育は元來理想的に行かぬ場合が多い。東京の名のある學校でも、智育にばかり走せて、體育が閑却されるといふ非難の聲がある。或は反對に體育ばかり勝つて、學業の成績が上らぬ所もある。學生は勉强と運動とが並行せぬ場合が多い。或は成績の優れぬ學生は、教室では常に教師に叱られて、同級生にも頭が上らぬから、其の憂さを運動で晴らす者が有る。そして運動にばかり活動して、學業は放棄する弊害が供ふ。學校では教師は學術の指導のみして、運動は學生の爲すがまゝに打つちやつて置き、弊害が積蓄してから俄かに學校當局が驚出しても、既に力が及ばない所もある。然るに我が林間學校の如きは、教師と生徒と共に生活し共に學び共に運動するのだから、一切が教師生徒の共同の生活で、此點から見ても、樂しい弊害の無い運動奬勵が實行されるわけである。

第九節　林間學校の生活

雨戸を繰る音に目が覺めると、戸外にはサア〳〵と水の音が聞える。雨かと思つて障子を開けて見ると、さうでは無くて、溫泉の落ちる音である。有明山の雜木林の上に紺碧の空がぱつと見えて、先づ爽快の氣持を與へる。雨の日には、朝霧が下の谷間から狹い溪谷を傳つて上つて來て、林間學校の部屋の中迄ずん〳〵はいつて來る。

楊子をくはへて溫泉へ行つて顏を洗ふ。其のまゝ朝湯の暖かさに浸る。溫泉から出て來て、庭を散步する。谷川の淸い流れを見下し、山々の靑葉を仰ぐ。そして暫く溫泉場のあちこちを散步する。丘から湧く湯氣の立ち登るのが朝霧

と一所になつて空の雲となるのが面白い。野天の湯にはもう朝湯の客が一ぱい浸つて居る。

更に廻つて來て、氣象觀測所の所へ出る。その硝子戸の中を窺いて、先づ今日の天氣はどうだらうかと、氣壓計や濕度計などを眺める。氣持がさつぱりして、頭が澄むから、直ぐ部屋へ歸つて、今日の學科の豫習をやる。同じやうな氣持で同室の數名も歸つて來て一所に机に向ふ。

食堂で朝食がすむと。又部屋で勉强する。その中に八時頃になつて、授業が始る。授業は、雨天の外は大抵教科書を持つて戸外へ出る。授業が二時間か三時間有つて、時には胴籃や採集網を持つて、可なり遠く迄出かけて、腹をすかせて歸つて來る。

授業がすむと、全部解放されて、時間は大抵十時か十一時となり、やがて晝になる。晝食迄に時間が有れば。圖書室で讀書するものも有り、音樂の練習をやるものも有り、外へ出て日光浴を樂むものも、運動場で遊戯をやる者もある。

午前中もう游泳場へ行つて游ぎ出す元氣者もある。朝の美しい光線をたよりに寫生を始める者もある。兎に角午前中の日光は丁度日向ぼつこに最適で、時には重ね着をして行かなくてはひや〳〵する事も有る。

十二時頃晝食がすむと、暫く休憩して、愈々盛に運動が始まる。或る者はテニスに、或者はボレーボールに別れ、角力も始まれば、砲丸投げも始まる。最も人氣の有るのは、何と言つても游泳で、大抵大半の生徒が河童になつて、頗る賑ふ。昨日迄は、浮かなかつたが、今日からは浮くやうになつたとか、今日は二間ばかり泳いだとかいふやうな、初學者の聲も聞えるし、游泳場をぐるぐる廻つて長泳をやつて居る達者の者も居る。その中に先生方が出かけて來て、一

所に驛ぐ。水中の遊戯が始まつて、水煙が雨霰と飛ぶ。

或る者は溫泉場の後ろの山の斷崖へ行つて岩石登攀の練習をやる。ロープやアルペントックが盛に試用される。或る者は林の中に天幕を持出して、始めて張つて見る。

雨の日は各部屋で娯樂が始まる。碁や將棋で先生をまかして威張つて居るものも有れば、浴室の隣りでピンポンに奮戰して居るものも有る。或者は自分の部屋で讀書し、或者は讀書室で高山植物の研究などをして居る。雨の日は頗る讀書室が賑ふので、委員の許可をえて、備附の書を自分の部屋へ持つて行つて勉強する者もある。更に勇敢なるものは、雨を犯して天幕へ出かける、そして雨中の火たきの練習やら、雨中炊事の工夫などをやつて見る。溫泉の游泳は雨中でもごく氣特が良い。湯の中の身體は適當に暖かで、頭のみつめた雨を浴びるのは實に氣持が良いものである。

雨の午後には室内で色んな整理の仕事を始める者が有る。即ち採集しておいた植物の標本を錯葉にしたり、昆虫を展翅板に張つたりする。講堂では音樂の始る時も有れば、講話の始る事もある。晴雨激變で氣象に興味の多い日には、氣象觀測の仕事が非常に興味を增す。

林間學校に滯在の日數が增して來ると、毎日の練習の結果を總合した色んな會合が行はれる。或時には圖畫展覽會、或時は競技會、或時は音樂會、野外童話劇、登山などがある。此等は章を改めて更に詳述するから、今は其他の事を述べて見やう。

晴れた日に溪流へ下つて、川狩りをすることは極めて興味の有る樂みである。一體中房川には溫泉が流れこむ爲めに、溫泉場の附近にはあまり魚類が居ない

が、信濃坂より下の川の深みにはイハナが居る。カヂカと稱する物も居る。半日を費して、信濃坂の茶屋の主人などに案内して貰つて、川狩を試みるのは愉快な仕事である。

山に通じた案内をやとうて、附近に兎狩をやつて見る事も興味の一つである。兎の通りさうな場所を選んで針金で簡易に造つた係蹄（ワナ）を前夜木の根に仕掛けて置いて翌朝早く行つて見ると、掛かつてゐる。網を張つておいて、學生總出で兎を追出す方法などは、最も愉快である。切角幾匹か追出しても、皆逃がしてしまふなどの失敗が却つて面白い追憶となるのである。

寫生は授業の中でも有功なもの〻一つであるが、更に寫眞も興味が有る。高原だから、光線の工合が平地とは違ひ、更に高山に登れば非常な相違を來すから、練習に興味が有る。ことに撮影の對稱になるものは、平地では得られぬ山岳の絶景ばかりだから、誰しもキヤメラを手にしたくなるのである。林間學校の一部には特に暗室の設備が有るから、自ら現像するに便宜が有る。

天氣の日には、蕨狩や、其他食用植物の採集に出かけて見ると面白い。山には食用植物が非常に多いのに驚く。採集を經驗して見れば、同時に毒草といふものも覺えられる便宜が有る。

更に天氣の日に、溫泉場の後ろの山に登つて、地熱の高い花崗岩の砂の中に馬鈴薯や雛卵を埋めて蒸して、舌鼓を打つて見るも、珍しい興味で、鑵に入れて飯もたけるし、下の熱い溫泉で芋や卵を茹でて試食するも面白い。

溫泉場の事務所の隣りに賣店が有つた、簡單な菓子や鑵詰を賣つて賣る。この菓子で時々「コンパ」が始る。更に溫泉場の少し下の所に　軒の餅屋が有る。そこが中房で唯一の飲食店とも言ふべきもので、飲食店と言つても、只餅とお

茶が有るばかりだが、仲々甘いあんころ餅をくれる。學生のコンパには時々此の餅も用ひられるが、たまには此の店迄出張してご馳走になることが有る。

山に來て幾日かになると、さすがに都戀しくなるので、郵便の來ることが何よりの樂みとなる。郵便屋が下の道から上つて來るのが見えると、學生は部屋から飛出して行つて、事務所で自分宛のものを貰ふ。そして返事を美しい中房の繪はがきに認めて、此の郵便屋に托する。都から小包でも屆いた時には、非常な嬉しさで、食品でもはいつて來た時には、同室の他の者まで樂しいご馳走になる。

一週間もたつと、多少都戀しさに、寂しみに感ずる者も出て來るから、娯樂の爲めに茶話會が講堂で開かれる。これは夕食の時にも行はれるが、多くは午後の「おやつ」の時刻である。そして東京から用意して携帶した特別の食品が出て、生徒は思ひがけぬご馳走を樂むのである。

一週間か十日もたつと、成城山岳隊の連中が、日本アルプス縱走の幾日の經驗を抱いて、林間學校へやつて來る。そこで林間學校では彼等を迎へて、別室に骨を延ばさせる。それから其の歡迎會を開いて、縱走の壯烈な報告を聞く。

信州の人々の湯治に中房へ來て居る者が、三百人から四百人もある。何れも山岳隊は二三日を中房の溫泉に慰勞して、それから下山するのである。

質朴な田舍人達で、其の滯在して居る間に、學生はそれと親んで、色々な珍しい田舍の風俗や傳說をきく。田舍の人の篤實な性格が都會の學生の精神に良い感化を與へる。溫泉に滯在して居る人々の中には、登山客も澤山ある。そして此等の登山客が每日〳〵案內を伴れて、此所を根據に出發するのを學生は見て居るわけだから、登山に關する智識が頗る豐富になる。卽ち其の準備の工合か

ら。服裝の精細に至る迄見學することが出來、やがて自分等が實際登山の經驗と思合せて、忽ち立派な登山心得を修得してしまふのである。

以上は林間學校の晝間の生活經驗であるが、夜の生活も極めて面白い。海濱の海水浴場でゞも有れば、夜外へ出ると興味は有るが、色んな誘惑が多くて、必配であるが、中房にはそんな必配は絶無である。又夜熱苦しい思もなければ、蚊の多い不快な感じをすることもないから、この秋の生活が長く後に忘れ難い追憶を殘すのである。

夜は萬籟寂として、水の流れと温泉の音が聞えるばかりである。靜かに聞くと後の山か有明のあたりに吐鵬の聲が裂帛の響をさせる。川をへだてゝ向ふの深林の中に、時々キー〳〵といふ聲がするが、或者は猿だらうと言ふ。昔は猿が此邊に頗る多かつたといふ話を思出し、色々な聯想を逞しうして、詩の世界にはいることが出來る。

音樂の練習は夕食後によくやる。何かの講演が時々ある。温泉場に滯在の名士を聘して講話をきくことが幾度もある。今迄は電燈が割合に暗かつたので、讀書に些か不便で有つたが、此れは最近に改良出來る筈である。

秋の生活としては、天幕生活などは興味あるものである。野天の湯へ夜おそくに浸つて、月や星をながめて、俗謠でもしんみり歌つて居ると、何とも言へぬ山の氣分になる。

夜が進んで、ことに四邊が森閑となると、生徒は何所のか部屋に集つて、よく物語りが始まる。先生が出て來て、怪談をする。一體話がはづんで、次から次へと面白い聯想のまゝに話題がうつる内には、きまつて怪談に轉ずるものである。靜寂の秋の怪談は特に幽幻になる。戸をたゝいたり、襖を鳴らせたりす

る惡戯者に驚かされて、膽を冷やすことも幾度か有る。いよ〳〵怪談も終ると、一同は各部屋に歸つて床を延べる。溫泉の好きな者は、入浴して來て、暖かい床にはいる。先生が時々生徒の間に床をのべて、一所に寢ることが有る。そして寢ながら更に四方山の物語をしてくれる。生徒はいつしか一人眠り二人眠つて、すや〳〵の可愛らしい寢息が聞えて、靜かな夢路に入るのである。

林間學校の生活では先生も生徒も殆ど一所になつて、同じ朝夕の生活に顏を合せて居るのだから、何等の掛隔ても無く、何等の遠慮もなく、非常な親みの出來ることが何より教育的で面白い。生徒がすつかり先生に親しんで、惡戯も遠慮なくするし、先生もふざけ合ふやうになる。或時の如きは、生徒が床を並べて、先生の來るのを待ちかねて、呼びに來た。先生が來て其中の床にはいるや否や、豫め策畧有つたものと見えて、生徒が突然飛出して來て、先生の頭の上に蒲團を被ぶせて押へ付ける。かくして所謂「蒲團蒸し」の戯むれをして先生が降參した大笑ひが有る。こんな家庭的な親みは、普通の學校の教室では到底得られぬ有意義の樂みである。だから林間學校に來て一週間ばかりたつと、都が戀しくなり、東京へ歸りたいやうな氣分になる小さな生徒も仲には有るが、二週間をへて、愈々下山といふ事になると、更に去ることが惜しくなつて來て、更に滯在を希望するものが幾人も出て來るのである。

第十節　圖畫展覽會

林間學校に來てからもう一週間以上たつた。平生圖畫の授業の時に出來た寫生畫が大部集まつた。そして授業時間の外でも、惡心のある者は朝な夕なに寫生をやつて居る。木や草のスケッチが澤山出來た。

畫の種類は色々あるが、クレオンが携帶に便利で、取扱ひも簡單だから一番多い。鉛筆畫も有る。水彩畫も仲々趣味が有る。進んだ生徒は油畫をやつて居る。油畫と言つても、キャンバスを張つてやるのは、手がかゝるから、板へ書くのが多い。繪具箱と三脚とを持ち出せば、其他の準備は臨機應變に出來るのである。人物を寫生したい者は、溫泉客の中に恰好なものが幾らでも得られる。あの野天の湯へでも行けば、立派な裸體が幾らでも有る。田舍の人は立派な畫のモデルになつた事を非常に光榮に思つて呉れるのである。

愈何日には展覽會を公開してお客さん方に見せるといふ事が傳へられると、生徒は一層乘氣になつて傑作が澤山出來る。山に來てから丁度八日目頃に公開展覽會が開催されることになつて、三日間開いておいた。

陳列した畫の中には先生方のも有つた。先づ圖畫の先生の傑作の油畫が二枚會場を睥睨して居る。一枚は溪流の木立を書いた夕暮の寫生で、「夕暮」と題したもの、一枚は林間學校の校舍を朝の光で畫いたもので、「朝の光り」と題してある。前の畫をかくのに、先生は毎日〳〵こつそり校舍を抜け出しては、下の河畔へ行つて居た。夕食が始まるときに、職員室の窓かち「オーイ霜田くーん、ご飯だよー」といふ呼聲が起る。さうすると下の谷間から、「オーイ」といふ答へが夕刻の寂莫を破つて山々に反響する。二日も三日もこの大きな呼應の聲が定刻に起るので、生徒は夕食時になると、「オーイ霜田くーん」を眞似る。そして遂に東京へ歸つてからも思出の中房ローマンスの一つとなつたのである。後にこの二枚の畫は毎年山岳展覽會を飾り、山の興味をそゝる材料となつた。數學の先生が處女作の油繪を試みて、滯在中の麻布第三女學校の先生をモデルにして、傑作が出來た。英語の先生も油繪で山の寫生をやる。クレオンで川の寫生をや

るといふやうな勢ひである。生徒の畫は無慮百枚、樣々な取材と試作が有つて傑作が數多かつた。そして此等を用意して來たラシャ紙に貼つて、ピンで會場の壁にかゝげた。各繪の下に美しく畫題をつける。此等は皆生徒が工夫してやつた。

此の年の展覽會には寫眞が出なかつたが、來年からは是非生徒の現像に成つた寫眞を出したらよからう。それから此地で得られる畫はがきや、高山植物の標本なども美術品として陳列すると面白い。中房溫泉場主百瀨氏には、名士畫家文人の手に成つた立派な書畫帖が澤山有るから、此等も特に借りて陳列すれば、非常に有益である。其他溫泉場には、大町の手塚氏の撮影した素敵な燕岳の寫眞の引延ばしが有るし、吉田博畫伯の同山の油繪の立派な複寫が有るから此等も會場を飾ることにしたら面白いと思ふ。

林間學校で石膏の彫刻をやる筈だから、今度からは其の作品を陳列することが出來やう。さうすれば單に繪畫ばかりの展覽會でなくて、廣い本式の展覽會になる。石膏は次の如くにして製作する。乃ち先づ豫め信州のどこかに注文して、粘土の或る量を中房へ送つて貰ふ。そして此の粘土で先づ製作を試みて、更に其れを型にとつて石膏に移す。滯在中に各生徒に一つか二つづゝの作品が出來れば、展覽會の陳列品としては有力な位置を占め、更に東京への中房土產として、絕好の紀念品となるわけである。

展覽會には澤山のお客さんが有つた。普通の溫泉浴客が喜んでぞろ〳〵やつて來た。丁度此頃中房に滯在中の東京第三女學校の先生と生徒が見に來られて、會場が頗る賑つた。かくして生徒には非常な勵みが更に出て、特意の鼻を高くした者が多かつた。

會がすむと、陳列した畫はそれ〴〵生徒に返した。それが東京への紀念の土

產となつたが、傑作は學校に寄附させて、後日の參考としたものも多かつた。

第十一節　音樂會

淸き高原にゆかしき音樂の聞える事が、實に中房を仙境にするものである。林間學校の音樂は、授業時間の外に、講堂のオルガンを使つて、暇の時に同志が集つては練習する。オルガンの外には携へて來たハモニカや橫笛が用ひられる。聲樂は二年生などの優しい聲が多いので、仲々美しい合唱が時々聞える。夕食後四邊が一層靜寂になつた時は、尙更音樂の音が冴える。かくて、だん〳〵熱心家が殖えて來て、先生も熱心な人が應援する。

多田敎諭の作歌に、「雪の降る夜は思ひ出す」と言ふ幼年時代を追想した懷しいメロヂーが盛に流行する。「中房くどき」といふ俗謠式な歌が、此の溫泉場の情調をよく現はして居るので、皆に歡迎される。熱心家が練習を積んだので、一度大音樂會をやらうといふ議が熟し、日を定めて開催することになつた。

吾々と前後して東京麻布第三女學校の生徒の一團が、中房に滯在して、同じ高原の生活を樂しんで居たので、之れも招待して合同の音樂會としやうぢやないかと、いふ案が出た。それは面白いといふので、議がまとまつて、早速女學校の先生に交渉すると、喜んで承諾して呉れた。そして女學校の生徒も非常に熱心で、毎日〳〵練習をやり始めた。女學校には音樂の先生が見えて居るので、その練習の結果は實に見ざましいものであつた。それでとう〳〵東京の中學校などでは見られぬ男女兩聲の完全な音樂會が、計らずも此の中房の高原に開かれることになつた。

二日前から丁度講堂に圖畫の展覽會が開催中なので、其の飾りつけを其のま

丶音樂會場に利用することになつた。そこで生徒の委員がポスターを書いた。先生も手傳つた。そして其れを溫泉の各客舍の方面に貼つたので、浴客の中には頗る人氣を博した。愈開會の當夜は來客が堂に溢れて廊下や窓の外迄聽衆が一ぱいであつた。

先づ開會の辭が有つて、いよ〳〵演奏が始まつた。そして先生もやる、來客も演ずる。ことに女學校の合唱はさすがにお手のもので、讃嘆の聲がやまなかつた。最後に此の會のスターとも言ふべき女學校の音樂の先生の獨唱に一同がすつかり魅せられてしまつた。そして時のたつのも忘れて居たが、あまり時間が過ぎたので、惜しい追憶をのこして、閉會した。此の夜のプログヲムは次のやうなものであつた。

開會の辭　鵜飼敎諭

雪の降る夜は　林間學校全部
糸車　女學校來賓
かち〳〵山　成城二年生
櫻　來賓
山川草木轉荒涼　三年渡部
スキートホーム　女學校來賓
ローレライ　同上
中房くどき　五年三井飯田
ジョスランの子守唄　女學校來賓
アンニーローリー　多田敎諭
秋思　來賓

カズリンメーバニン　霜田教諭
スウオンニーリバー　同　上
ハレルヤコーラス　女學校來賓
歌劇プロフェートの中の
あゝ我が子よ　女學校長谷川教諭
閉會の辭

中房の音樂は、非常に精神的に生徒に美しい影響を與へて、二週間の生活が爲めに餘程精神的の度を增した事は疑いが無い。ことに此の間に覺えた新しい歌の如きは、非常に聯想がよかつたと見えて、東京へ歸つてから第二學期の間に常に繰返されて居た。そして二三人が集つて思出しては歌ふと、山の美しい追憶が浮ぶものと見えて、懷しい山の話が始まつた。九月の始めに學校で林間學校の茶話會があつた時など、會は直ぐ林間學校の歌で始まつて、幾度も合奏をやつたものである。恐らく山の音樂の美しい影響が成城中學校の生徒の多くの日常生活にも生きて居るであらう。

第十二節　野外童話劇

演劇が學生に及ぼす功果は、今更喋々する迄もないが、學生が眞面目に此れに與つて、學生に適切な內容のものが選ばれさへすれば、極めて興味のあることである。ことに劇を只見るといふだけで無くて、學生自らが役者となつて、此れを演ずる時には、內容の良いものを選べば、非常な教育的功果を擧げることが出來る。普通學校などでやつても、如何なるものが青年に適するかもよく考へずに、只無暗に劇でさへ有れば良いとして、大人の專門家のやるやうな物

を取つても成功しない。そして應々子供には不適當だといふ非難をさへ受ける。徒らに扮裝や裝飾にばかり凝つて、內容の精神を閑却すれば色々な弊害が供ふ。所謂お芝居氣分を全然拔きにして、どこ迄も眞摯な教育的といふ事を忘れてはならぬ。

然らば如何なる種類のものが、學生劇として意義が有るだらうか。此れは大問題だから、全體として其れを論ずることは今暫くおいて、林間學校で實演に吾人が適當と思つた物に就いて、今述べて見やう。一體劇といつても、第一意を用ひねばならぬ點は、劇の種類がそれを演ずる場所によつて色々に別れることである。林間學校は信州の日本アルプスの谷間にある閑靜な高原だといふことを忘れてはならぬ。第二に生徒は二年三年位な小さな生徒だといふ事である。第三に山の中だから裝飾や衣裳に面倒な材料は得られぬので、此方面は出來るだけ臨機應變的に簡單にすませるつもりで無ければならぬ。こんな點から、吾人は出發前から色々と考へて居た。

始めには英語劇をやらうかとも考へた。此れはどうせ毎日林間學校では、英語の授業をやるのだから、學科の補助にもなり、英語といふものを實用的に口に馴れしめ、趣味を起させる點からも必要だと思つた。然しながら二年と三年の初級な生徒が大部分だから、用ひる英語を充分に豐富にするわけに行かぬ。そこで思ひ切つて、此の案は止めて、全然日本語で、もつと興味充分なやり方をしやうと考へた。そして務めて美の感念を助長すべきもの、卽ち林間學校でやる美術教育の一助となるべきやり方を考へた。或る外國の美術雜誌に有つた兒童用のペイジエント劇をやらうと決心した。之れには中房の地が野外ペイジエントに好適な地で有るといふ事が第一の原因であつた。卽ち溫泉場の後方の芝生の直

く後ろに美しい松林が有つて、岩もあり、草木が自然の美しい背景をなすから、之れを利用して見やうといふ考へで有つた。所がペイジエントで有る以上、可なり見た所が美しくなければならぬ。それには衣裳が仲々用意を要する。之れも上述の要件に矛盾する。そこで此のペイジエントの飜譯飜案は面白いものが出來たが、まだ充分のもので無いと思付いた。そこで別に色んな材料をあさつて見たが思ふやうな物が無いので、とう〳〵詩人霜田史光氏に相談した。史光氏は非常に此の企てに興味を持たれて、中房に同行しやう。そして其の土地を見て、適當な野外童話劇を創作してやらうといふ事になつた。これで選擇の困難も片付き、適當な條件が活きることになつた譯である。

中房に着いて、先づ其地方の傳說を調べた。次ぎに自然を愛し、動物を愛し、山の美を傷けぬといふ精神的の教訓を之れに配することに考へた。史光氏は靜かに中房の空氣に落付いて、充分山の氣分になつてから、除ろに創作を始めて呉れた。そして出來上つたものが「山の神々と少年」といふ野外童話劇である。

劇が出來ると、作者自身が中心になつて、生徒によく一切を了解させた。そして先づ國語の授業として色々の方面から此れを研究させて、愈所演の準備に取りかゝつた。先づ適當な人物を考へて、役割が出來た。先生が二人中へはいつた。此れで生徒も興味を增した。作者自身が自ら舞臺監督となつて、毎日ひま〳〵に練習を始めた。山の神樣が澤山出て來るので、もうすつかり山を支配したやうな氣持になる。傳說の一部が條の中に出て來るので、中房といふものが非常に興味をそゝる。山を愛する氣分が旺溢して來た。

衣裳は極めて簡單で、之れが超人的な山の神樣の服裝にはよく適した。或神樣は日蔭のかづらを全身に纏うて居る。或神樣は「猿のおがせ」の長い鬚を蓄へ

て居る。又或神樣は大きな紙を無造作に被せて地衣でしばつた靴を穿いて居る。餓鬼岳が恐ろしい風采で石楠を棒を持つて坐ると、大天井が素敵な高い脊で、高足駄で、ぬつくと突立つ。白馬の神が躍り出して天馬の身振よろしくあると、槍ヶ岳が白い浴衣に笹の葉を纏うて槍を持つて對する。此等の神々を率ゐて大神が嚴然と高座にすはる。可憐な猿が出て來て、其の猿が、實物をあざむく。獸の精が羚羊の皮を負うて現はれる。(之れは下の餅屋の敷皮を借りたものである) 木の精、鳥の精、水の精が、各適當な服裝で出る。それから登山青年が二人、何れも生徒の携帶して來たルックサックと、アルペンストックを持つて居る。その一人は笛を持ち、一人はハモニカを持つて居る。

練習は閑暇の時を利用した。二三日たつと、燕登山と槍ヶ岳縱走をやつたので其等の日は練習を休んだ。この休日を除いて一週間足らずで立派に所演が出來るやうになつた。

中房下山の二三日前、愈公開した。第一幕は松林の前の平地に天幕を張つて、そこで始つた。觀客は直ぐ下の客室の方向から見ることにした。場面の右手は直ぐ溫泉湧出の岩石の丘で、ずつと背景には松林の上に燕丘の深林がのしかゝつて居る。第二幕は、林間學校々舍の直ぐ上の岩石重疊の間で始る。觀客は林間學校の緣側及び其の附近で下から見上げるわけである。ずつと奥の一段高い岩に大神が坐を占め、其の下に兩側に他の神々がずらりと居並んで、神樣方の會話で先づ始り、先の登山青年が現はれ、笛とハモニカの奏演が有つて、心立ての良い青年が大神の讃稱をうけて光榮を施すので幕が終るのである。こゝの背景は岩石累々とした所で、深山の神々の會議會の坐には絶好で有つた。

觀客が頗る澤山有つた。そして幾多の寫眞機が四方から向けられた。實演が

終ると、役者達は又別に三々五々親しい達友と記念の撮影をやつた。この童話劇はことに生徒の興味をそゝつて永く後迄思出の種となり、中房土産の好話題となつた。中房の土地によくふさはしかつたので、中房溫泉場の主人も頗る喜んでくれた。こんど東京で山岳の宣傳をやる時に、之れを實演したら興味ある極めて有力な宣傳力を發揮するであらう。童話劇としても蓋し文學的價値の高いものであらう。

此の時の役割りを左に記して、後の參考とする。

「山の神々と少年」

登山少年行夫……三年渡部
同　又雄……三年清水
猿……二年深尾
大　神……五年三井
槍ヶ嶽の神……鵜飼敏謙
白馬の神……多田俊謙
立山の神……二年本庄
燕嶽の神……三年滿井
大天井嶽の神……五年青山
餓鬼嶽の神……五年飯田
乘鞍嶽の神……二年神澤
有明山の神……二年芝山
木の精……二年小澤
獸の精……二年奥山
鳥の精……二年廣瀬
水の精……二年大野

（附錄ペイジュント劇、及「山々の神と少年」參照）

第十三節　登山及天幕生活

成城中學のその山岳部は天幕を幾つも持つて居る。そして夏ばかりでなく、或は春の休みを利用して、學生が秩父の山彙を探險して、夜營をやつたり、或は月明き秋の夜、多摩川畔に天幕生活を試みたりして居る。この山岳部の中に實は林間學校も屬するもので、彼等は天幕生活には常に趣味を持つて居る。そして今年七月開かれる林間學校を待ち兼ねて、既に早く東京附近で天幕の生活をよく試みる。そして新たに下級生で林間學校へ參加しやうといふ者は、その高原の天幕生活といふ事を一つの樂みにして行くわけである。

中房溫泉場主は、近年世人が天幕生活といふものに非常な興味を抱いて來た事を視て取つて、先年立派な天幕を東京から調へた。そして溫泉場の後ろの岩間に之れを張つて。浴客の使用に開放した。林間學校の生徒が自由に利用出來る天幕の一つは此れである。

林間學校は自分の天幕を持つて居る。去年校長澤柳博士が歐米の視察から歸つた時、土産に米國からわざ〳〵一張りのテントを持歸つた。其れは長方形の家形のもので、極めて少數の木材が有れば、直ぐ張れる便利なものである。重量も輕いから、携帶にも亦便利である。

林間學校が使用しうる天幕がまだ別にある。其れは前述の山岳隊が登山の時携へて行つて歸途中房に寄つた時置いて行つて呉れるものである。山岳部には實に三四個の完全なものと、陸軍式個人携帶用のものが多數有るから、もし總てを此所に集めたら、恐らく林間學校生徒の過半數が、一時に使用するに足るであらう。然し林間學校には他の行事が澤山有るから、天幕生活ばかりやつて

は居られない。それで生徒は交代して、少しつゝ之れを試みるのである。

温泉場の後方の丘で、後ろに松林を控え、傍に野天の湯がある邊りに先づ最初の天幕を張つて見る。そして經驗のある生徒を指導者として、經驗無いものを加へて、二三日續けて見る。稍經驗が出來たら、今度はも少し人跡を離れた後方の松林の中へ張つて見る。此の頃には經驗が積んで來て、參加者が非常に殖える。

先づ順序として、經驗無い人の爲めに、天幕の張り方を一寸說明する必要が有る。天幕を張るには、如何に晴天と雖も、必ず雨の時を豫想して張ることが絕對的に必要である。だから地形を相して、雨水の流れ込まぬ所を選ぶやうにせねばならぬ。岩と岩との間の凹みの場所を初學者はよく選ぶが、此れは避けるがよい。然し風の當てぬ、暖かな所といふ事も相當に考へる必要は有る。多少傾斜した場所で、水のはけが良い所は理想的である。高山の高い所に張る時の注意は別にして、今此の邊で適當な注意をもう少し述ると、天幕を張るに先つて、先づして置かねばならぬ事は、天幕の廣がる所の四周に溝を掘ることである。之れが水の天幕內へ流れ込まぬ爲めの用意であるが、往々晴天のまゝに之れを怠つておくと、雨に逢つて急ち流水に床が濡れて、遂には居所も無なる不快と非衞生とを經驗せねばならぬ。次に天幕の張り繩を止めるべき卜字形の木の枝を多數切つて用意しておくことである。その次ぎには天幕內に敷いて床の代りにすべき木の枝葉か草を思ひ切つて澤山用意しておくことである。之れは高山の上ならば大抵這松の枝が唯一の材料である。其の他の材料は大抵天幕に附屬して居るから必要に應じて二三の木の枝を切つて來る位で事は足り

此の準備が出來たら、嚢の中から天幕を出して見る。その天幕が圓錐形のものならば必ず中央の柱となるべき棒が三つに切つて入れて有るから、之れを接ぎ合はせて、屋根の頂點に内側からはめて、押立てる。同時に天幕の裾を張繩で四方に張る。そして先に用意しておいた卜字形の枝を地中に打ちこんで、一つ〳〵此の繩を止める。四邊が岩石ばかりならば、然るべき適當な方法で之れを止める工夫をする。もし高山の風強い所ならば、天幕の裾へは砂と石を被せて、吹飛されるのを防ぐ。入口の庇のやうな部分が有るから、棒を立てゝ之れも繩で張る。風雨の時には入口の屋根は中から閉めてしまふ。

天幕の中は案外暖かいものである。小田原提燈の蠟燭の熱くらゐが熱くてたまらぬ事さへ有る。頂邊に窓が大抵有るから、内側から繩を引いて開けておく。然し十に數いた木葉が少いと夜中に可なり冷えるものだから。思切つて下の敷物は厚くして、必ず毛布を敷く必要が有る。中房ならば大工さんの鉋屑でも何でも貰へるから、都合がよい。

天幕生活ばかりで長期を暮さうとする計畫には、必ず床の事が問題になる草や木の枝ばかりでは、どうも居心地が惡くてならぬ。こんな場合に、西洋では特種の寢臺代りの夜營用チエアを用ひるが、思ひ切つて板で床を張つてしまふ方が便利で、衛生的である。チエアにせよ、床にせよ、寢る時には夜營用の嚢を用ひて、首の所迄全身を其の中に入れてしまふと、非常に便利である。

西洋のOpen-air Schoolでは、高山療法を應用した病院式の露天生活も力說される。そして夜の空氣が人體に有益なることを說いて居る。わざ〳〵首だけ窓から外へ出して寢かす病院さへ有る。夜氣は人身に大害ありとされて居た我國の古い考へとは正反對である。

天幕生活は畫間も面白いが、ことに夜間が興味が有る。生徒は寄宿舍の部屋の布團迄擦ぎ込んで、愉快な幾夜をこゝに送るのである。そして四面靜寂の夜の中に色んな物語りが好まつて、遂には怪談迄始る。惡戯者が奇聲を發して妖怪だと驚がせるなどの戯がよく起る。

於林で天幕生活をやつて居る間に、後方の斷崖で「岩石攀ぢ」の練習をやつて見ると面白い。登山用ロープと、アルペンストック、ピックアックスなどの使用法を練習するには恰好の場所であるが、少々崖が險しいから、經驗ある教師の指導の下に上級生だけの仕事としなければならぬ。

燕岳の頂上の小屋にも、天幕の備へが有る。嘗て林間學校の生徒が燕登山をやつた時、上級生の二三名が、止つて一夜を此の小屋に過した。そして趣味ある這松の焚火の傍に心ゆく迄山の氣分を味はつて假寢の夢を樂んで居た姿の可憐さに、小屋の主人赤沼氏が大に感じて、此所に天幕を備へて學生に高山の夜を味はせやうと思立つたのに基いて、設備が出來たわけである。燕の小屋ならば正に九千尺の上、その天幕の夜は限りなき趣味と經驗の機會であらう。

中房の高原生活に生徒が稍馴れた頃、晴天の日を見計らつて燕岳へ登山する。更に少しの時日を置いて再び登山する。上級生の有志は此の二回目の時には充分用意を整へて、一泊の豫定で槍ヶ岳へ往復する。

此等の登山が中房の生活中何よりも得難い經驗で、林間學校の修養の目的を助けること甚大である。先づ登山には準備がいる。如何に晴天の日と雖も、高山の上は必ず一回か二回の霧と、驟雨が襲來するから、必ず雨具を用意せねばならぬ。草鞋の巧みな使用法や、登山靴の利用などもよく解る。帽子は如何なる種類のものが良いか、蓆（ゴザ）は如何に役立つかなどの實驗がえられる。先づ金

剛杖を用意して、出來るならばルツクサツクに身を堅め、辨當を携へて朝早くたつ。燕岳へは巧みに上りさへすれば割合に平易な登山だから、生徒全部が登る。前夜の講話に聞いた登山の心得を思出しながら、極ゆつくりと登り始める。燕岳はことに道が初めの所が險しくて汗が出る。この初めの中に急いで精力を消費した者は中途にして弱つてしまふ。初め極めて靜かに元氣無さ過る位にして、餘力を蓄へて居るものは、中途から大元氣が出る。そして一行の中に無暗に急ぐ者が有れば、足の弱い連中は迷惑して疲勞者が出來るばかりだから、團體の登山といふ事に良い經驗を一同が體得する。燕岳では途中一切飲用水が得られぬから、水筒の用意の有功なる事がよく解る。息の切れた時には、氷砂糖やキャラメルなどの功能がよくわかる。そして斯んな場合にはキャラメルが良いか、菓子の豆が良いか、氷砂糖が良いかなどの問題が自然に解決がつく。

栂や樅、白樺や榛の木などの高山樹木の見學がよく出來る。針葉樹帶の大觀から、峯に近くに從つて樹木の丈が低くなること、峯に近い所では風の爲めに樹木の枝が一方になびいて磯馴松に似たる事などが、自然に理解される。深林中の陰性植物や、這松帶から草木帶につゞく峯の草木の樣子など、誰が言はなくとも、皆注意する。三角點の見張らしで、先づ連峯の壯美を感じ、富士や八ヶ岳の遠望に爽快の氣を起す。兎が飛出したり。雷鳥に驚かされたりして、下界と全く氣分が變つて來る。お花畑で始めて高山植物の爛漫たるを讃嘆して、いよ〳〵峯の小屋につく、飛彈山脈が眼前に展開する瞬間は壯絶の極で、あつと言つたきり、暫く恍惚とするものが多い。そしてアルプス連峰の雄大と雪溪の壯麗とに魂を消す。槍ヶ岳の天を摩するを見て、雄心が少年の胸に溢れるのである。燕小屋の紅茶と饅頭に舌鼓を打ち、少憩の後燕岳の絶頂を極めて展望を肆